

# CHESS #12

# Magazine

February 2024  
japanchess.org

Interview

石井仁蔵さん



Chess Center UENO



ANNIVERSARY



Christmas Chess Party 2023



特集:

## 日本チェス連盟5周年

Vision 2030 / Chess Center UENO / 日本チェス殿堂 / 年間表彰

クリスマスチェスパティー

アービターになってみませんか？ 他



Japan  
Chess  
Federation

# CHESS Magazine #12 February 2024

## Tournament Report

- 03 ルーキーズチェス 2023秋
- 04 ステップアップチェストーナメント 2023秋
- 05 クリスマスチェスパーティ 2023
- 06 [スタッフレポート] 三重野雄貴
- 09 [優勝者自戦記] 長瀧航太
- 11 東海オープン 2023 堀江貴広
- 13 [優勝者自戦記] 小島慎也
- 15 [Tournament Report] Flipi Poggenpoel
- 19 北米企業対抗チェスリーグ Season8 観戦記 ② 堀江亮佑

## Interview

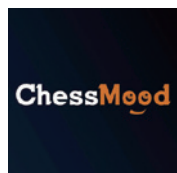
- 21 石井仁蔵さん

## 特集：日本チェス連盟5周年

- 24 Vision 2030
- 26 Chess Center UENO
- 28 日本チェス殿堂
- 29 年間表彰
- 30 アービターになってみませんか？ 阿部裕太

## 海外遠征記

- 40 33rd annual North American Open 中川晟志
- 43 20th Mont de Marsan クリスマス国際オープン 阿部裕太
- 32 名プレイヤーから学ぼう vol. 8 Vasily Smyslov 山田弘平
- 38 チェス大会 in アメリカ NO.74 上杉賀子
- 47 初心者向け メイト・ジム 05 ナイトのメイト 山田明弘



Japan  
Chess  
Federation





## ルーキーズチェス 2023 秋

2023 年 11 月 25 日 (土)、東京は大田区の池上会館に 19 名が集まってくれました。

ルーキーズチェスは大会の体験会で、大会に参加したことがないプレイヤーが対面の試合を通じてトーナメントを体感するお試し会です。

例えば試合の開始前に 0 ラウンドが設けられ、まず一旦 5 手程指してみるなど、少しずつ試合に慣れるような工夫がされています。

また、体験会といえども、持ち時間 15 分 +10 秒 / 手で 3 ラウンドを真剣に戦います。チェスのルールに則って片手で指し、時計を押す。余裕があれば棋譜を書いてみる。これだけでも慣れないと難しいものです。

試合の合間にはアドバイザーが試合運びのヒントを教えてくれたり、日頃から疑問に思っていることに答えてくれます。

「楽しかった！今度は大会に出場します！」多くのルーキーたちがそう約束してくれました。







## ステップアップチェス トーナメント 2023 秋

ルーキーズチェスと同日、同じ会場で、午後からはステップアップチェストーナメントが開催され総勢 41 名が参加してくれました。初心者向けの大会とはいえ、4 ラウンドスイス式、持ち時間 15 分 +10 秒 / 手の国内ラピッドの公式戦です。

U1400 という基準があるせいか、これまでは初心者に加えて子どもが中心に集まって力試しをする大会だったのですが、今回は大人の参加者が増え、真剣勝負を繰

り上げていました。

普段の大会ではタイブレークによって 1 人の優勝を決めることが多いのですが、初心者向けの大会とあってその健闘を讃えるために全勝者は全員優勝としています。そのため優勝者が 3 人に。

優勝者に渡す封筒が足りなくなり「準優勝」と書かれた封筒を渡された優勝者に「中身を確認したほうがいいぞ！」というアドバイスが飛んで、笑いに包まれた和やかな表彰式になりました。

一方 U1000 も上位 3 名が表彰され、チェスを始めたばかりの方や大会初参加の方でも受賞できるチャンスがある大会です。

2024 年 2 月にも開催が決定していますので、皆様のご参加をお待ちしています！

### オープン

- 1 位 Patil Rushad 4.0/4P
- 1 位 Tran Tran 4.0
- 1 位 古瀬 瑞季 4.0
- 4 位 野田 龍 3.0
- 5 位 Berends Gijs 3.0
- 6 位 白戸 秀 3.0

### U1000

- 1 位 Pellet Sebastien 3.0/4P
- 2 位 白石 誠 3.0
- 3 位 川上 幸亮 2.0





# クリスマスチェス パーティー 2023

「クリスマスだからチェスのパーティーに集まろう！」

そんなコンセプトで開催した大会。ラウンド中は熱い戦いが繰り広げられましたが、ラウンド以外の時間は笑顔がいっぱいあふれました。その様子をフォト日記にして綴ります。

①会場にはサンタやトナカイが！



②こんなところにクリスマスツリー



③大会に来れば、休憩時間でもチェスをプレーしてる仲間がいっぱいます。ぜひ声をかけてお友達になってください。



④「これが欲しいなあ」と呟いて、欲しい景品を引き当てる小島選手の運の強さは異常！（驚）



⑤表彰式で積極的にサンタとトナカイに扮してくださった長瀧&南條選手と、恥ずかしがっていた野田選手のコントラスト。



2023 年、大会に足を運んでくださった多くの参加者への感謝を込めて、アジア競技大会の公式グッズを景品にした抽選会も開きました。

そんなチェスのクリスマスパーティーでしたが、来場していただいたプレーヤーには楽しんでいただけたでしょうか。

2024 年も日本チェス連盟をよろしくお願いします。

また会場でお会いしましょう！



# クリスマスチェスパーティー 2023

三重野雄貴

突然ですが、クイズです。チェスのルールの正誤問題です。次の文章 Q1 から Q3 は、それぞれ正しいでしょうか？ それとも間違っているでしょうか？（答えは本記事の最後に）

Q1. ドローオファーは、正式なルールとしては、自分の手番の間にする必要があります。

Q2. プレーヤーの時計の押し忘れは、アービターが直ちに指摘することができます。

Q3. 棋譜用紙に書くことができる項目には、決まりがある。

## 第1章 大会の結果及び様子

### 1. 概要

2023年12月17日(日)に、「きゅりあん」において開催されたクリスマスチェスパーティーは、総勢75人の選手が参加し、盛況に終わりました。参加された皆様、お疲れ様でした。

### 2. オープン部門 (30名参加)

日本のトップを担う2人のIMのほか、オリンピアド経験者のCM小林厚彦さんなどもエントリー。スタート順位の上位6人が2000点オーバーであることから明らかなように、ハイレベルな戦いが予想されました。

初戦から、レーティングが400点以上も格上の選手に対し、ドローを獲得した選手が2人&勝った選手が4人おり、波乱の幕開けでした。その後も混戦となり、3回戦では上位3ボードがすべてドロー、この時点で全勝者はいなくなりました。

最終戦前には3.5ptで4人が並んでいたところ、見事勝利して4.5ptを獲得した長瀧航太さんが優勝を果たしました。長瀧さんは、3月の東京チェス選手権と併せ、本年2度目のオープン大会(※)制覇です。今回もIM小島慎也さんや小川トミーさんといった強豪に勝利しており、実力は誰もが認めるところでしょう。

IM南條遼介さんは、同点なが

らタイブレークの差で惜しくも準優勝でした。初戦はドローとなったものの、以降は新鋭や歴戦の選手に勝ち、実力をいかんなく発揮しました。

お二人は、3月にフランスのカペルで行われる大会に招待選手として出場予定です。現地での活躍を期待しています。

※オープン大会とは、一般に、出場資格の制限がない大会を意味します。レーティング制限がある大会や、一定の成績を収めた者のみに参加できる大会(例:全日本チェス選手権)などは、これに該当しません。

一方、レーティング格上相手にオープン部門で果敢に挑んだ選手もいました。その中でも、野田龍さんは4ptを唯一獲得して3位に入賞する大活躍でした。最終戦では強敵相手にナイト対ビショップのエンディングを勝ち切るなど、しっかりとした指し回しが印象に残りました。また、入賞者以外にもジュニアプレーヤーの活躍が目立ちました。例えば、松永冬馬さんは優勝した長瀧さん以外の全員からポイントを獲得しました。大会にコンスタントに出場している方々は、実践経験も豊富になっていることもあってか、力をつけている印象があります。他の選手の方々も、強豪と真剣に対局することは、今後の糧になったと思います。



### 3.U1400 部門 (45 名参加)

初めて大会に参加するという方から、普段から大会で実力試しをしている方まで、老若男女の様々な選手が出場しました。直前のステップアップチェス大会(11月25日開催)に参加した方も複数おられ、リベンジを果たしたいという方もいたのではないのでしょうか。

Min Junu さんが最終戦を制し、5 戦優勝で金メダルを獲得しました。Min さんは、他国で行われた FIDE 戦のご経験はあるとのこと、今後さらに実力を伸ばすことでしょう。サンタクロース姿で登場した Bhatia Praveen さんは、同じく全勝でしたが、タイブレークの差で銀メダルとなりました。4pt で 4 人が並びましたが、銅メダルは大学生の佐々木權志さんが獲得。他の 4pt の方々も、表彰式で ChessMood 賞を獲得しました。

アービターをしつつ局面を見てみると、実力向上が著しく、レートが追いついていないような方もいました。最近は、インターネット上で実力をつけて、初めて大会に参加される方も多いと思います。公式戦ならではの緊張感など、対面での対局での醍醐味を味わって頂ければ幸いです。一方、大会に何度も参加されている方の中には、「これだけ人数がいるのに、なぜかよくこの人と当たるな...」

という方もいると思います(チェス大会あるあるでしょうか)。これを機に切磋琢磨する相手を見つけるなど、交流(やりベンジ?)の機会とするのも楽しみ方の一つだと思います。

### 4. 抽選会・総括

表彰式後、アジア大会のグッズを含む品々の抽選会が行われました。悲喜こもごも(?)な様子もありましたが、このグッズを引くと宣言し実際に引き当てる強者も!日本チェス連盟主催の 2023 年最後の大会は、にぎやかに幕を閉じました。また、駒を並べたり、片づけたりなど、スタッフの手伝いをしてくださった方々、ご協力ありがとうございました!

## 第 2 章 運営スタッフから見たあれこれ

### 1. 部門分けの目的は?

ここからは、運営スタッフかつ普段はプレーヤーである者の目線から、様々な観点から本大会を振り返ります。

まず、本大会はオープンと U1400 の 2 つの部門を設け、ペアリングを別に行いました。今回、部門を分けた主な理由は、①同率優勝となる可能性を減らす点及び②幅広い層に参加してもらう(実力が近い人と当たる方が楽しい人がいるだろう)点です。なお、①を目的とする別の手段として、「加速スイス方式」を用いることがあります。

### 2. 棋譜

今大会では、棋譜を採るかは自由でした。ためしにオープン部門で棋譜を書いている方(時間切迫等で途中までとなっている方を含む)を数えたところ、18 人/30 人でした。U1400 部門においても、時間切迫になるまで熱心に棋譜を書いているプレーヤーも多かったです。なお、強豪の方の中には、1 局記憶して直後にスマホ入力するという方もいるようです。大会を経て自分に合ったスタイルを確立できればベストかもしれませんね。



### 3. チェスのルールを知ることが重要？

チェスは「(マインド)スポーツ」と言われることがあります、ルールに関しても他のスポーツと同様に、しっかりとした内容が国際機関である FIDE により定められています (Laws of Chess が典型です)。盤の向きや駒の動かし方といった基本的な内容はもちろんのこと、ドローの条件なども記載されています。英語かつ分量も多く読むのが大変なので、すべてを頭に入れる必要はありませんが、ルールの例を紹介します。

本大会で一番多かったのは「イリーガルムーブ」(相手のチェックに気付かずにチェックを防がない手を指すのが典型) + 「タッチアンドムーブ」(触った駒を動かす) でした。2 回目のイリーガルムーブは負けになってしまうほか、イリーガルムーブをした際に動かした駒がクイーンだったために、タッチアンドムーブに従ってクイーンを捨てることになるというような、勝敗に直結する状況が生じることがあります。

他に今回、複数あったものとして、3 回目の同一局面出現でドローに「なりうる」場面がありました。というのも、3 回目であることをアービターが目撃しても、プレイヤーが申立てをしなれば、アービターは介入できません (同一局面が 5 回目になるとプレイヤーが何も言わなくても介入

します)。私が見ていた対局は、3 回目の同一局面が出現した直後に、相手が手を変えてそのまま押し切り、幻のドローとなりました。Chess.com などでは、自動的にドローになりますが、対面の大会では自分で数えることが必要になります。上記のように、結果に直結するルールもあるので、頻出する重要なルールに関しては、大会などをきっかけに、少しずつ知って頂くと良いと思います。

### ※クイズの答え

Q1. 正しい。正確なドローオファーの方法は、『①自分の手番で駒を動かす (指す) → ②ドローにしませんかと発声する等してドローオファーをする → ③時計を押す』という手順です (Laws of Chess 9.1.2.1 参照)。この順に従っていない場合であっても、相手が承諾すれば、ドローになることはあります。しかし、相手の手番の間にオファーをしたときは、相手の思考を妨害するため、ペナルティの対象になる可能性があります。

Q2. 誤り。時計の押し忘れについては、原則としてアービターはプレイヤーに伝えることはありません (Laws of Chess 12.6 参照)。他のボードの選手や観戦者の方も同様です。押し忘れに気付いた対局相手は、相手に指摘することができます。なお、時間切れを発見した場合は、アービターは直ちに介入します。

Q3. 正しい。棋譜用紙に書くことができるのは、①指し手、②時計の時間、③引き分けの提案、④クレームに関する事項などに限られています (Laws of Chess 8.1.4 参照)。



# クリスマスチェス パーティ 2023

## 優勝者自戦記

長瀧航太

昨年の 12 月 17 日に行われたクリスマスチェスパーティーでは幸運にも優勝することができました。直近の大会ではあまり良いゲームができていなかったのが今回は自分に期待せず参加しましたが、そのおかげでプレッシャーを感じずのびのびとプレーすることができたことが功を奏した気がします。

今回は 4R の小島さんとのゲームを紹介します。

今回の大会は 3R 終了時点で全勝者が消え、トップが 2.5p で 8 人並ぶというなかなか見ない状況でした。

Nagataki, Kota

IM Kojima, Shinya

Christmas Chess 2023(4)

1.e4 c6 2.d4 d5 3.Nc3 dxe4  
4.Nxe4 Bf5 5.Ng3 Bg6 6.h4 h6  
7.Nf3 e6 8.h5 Bh7 9.Bd3 Bxd3  
10.Qxd3 Nf6



ここまではこの前の全日本のときと全く同じ進行です。前回は 11.Bf4 Qa5+ 12.Bd2 Bb4 13.c3 Be7 14.c4 Bb4 と進み、黒マスビショップの交換が強制され白はあまり満足できない展開になってしまったので、今回はその反省を活かします。

11.Bd2 Be7 12.O-O-O c5  
13.Ne4 cxd4 14.Nxd4 Nbd7  
15.Nxf6+ Nxf6 16.Qb5+ Qd7  
17.Qxd7+ Kxd7



クイーン交換をしたことで白のアタッキングチャンスは減りますが、黒キングは少し危険な位置にいるため、特にラピッドであれば白にチャンスが来る可能性は十分にあると思いました。17...Nxd7 には 18.Nb5 が黒にとって厄介となるため、クイーン交換は悪くない判断だったと思います。

18.Be3 Nd5 19.Nf5 Bf6

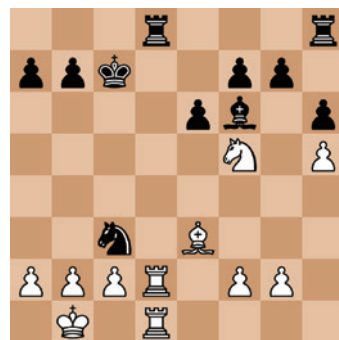
いちばん自然な Bf6 をちゃんと考えていなかったため、ここで f5 のナイトが予想以上に動きづらく e3 のビショップも動きづら

いことに気づき、白の方が指しにくいと感じました。

20.Kb1

自分から手を作れなさそうなので、とりあえず c ファイルからキングを避けておきます。

20...Kc7 21.Rd2 Rad8 22.Rhd1  
Nc3+



黒から局面を動かしてきました。白としてはプランが定まっていなかったのが、少し安心しました。

23.bxc3 Rxd2 24.Rxd2 exf5  
25.Bf4+ Kc8 26.Rd5



Rd5 は f5 のポーンを狙いつつ Rc5-Rc7 からルークを 7 段目に侵入させる狙いがあるので、絶好の位置です。またこの時点での残り時間が白は 5 分以上あるのに対し黒は 1 分を切っていたので、黒は受け切るのがなかなか大変そうです。

**26...Re8 27.Rxf5 Re4 28.Rc5+**

28.Bxh6 を見落としていました。28...Bxc3 29.Be3 は白勝勢です。

**28...Kd8 29.Bg3 b6 30.Rc7 Re7 31.Rxe7 Kxe7**



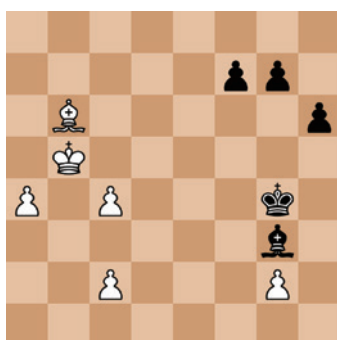
キングサイドもクイーンサイドも黒のポーンだけが黒マスにあるので、黒マスビショップだけが残ったエンドゲームは白に勝つチャンスがありそうです。

**32.Kb2 Ke6 33.Kb3 Kf5**

クイーンサイドとキングサイドの速度勝負はクイーンサイドのポーンが先に落ち、白勝ちになります。33...Kd5 34.Kb4 a6 と進むとクイーンサイドのポーンはひと

まず落ちないのでまだまだ難しいです。

**34.Kb4 Kg4 35.Kb5 Kxh5 36.c4 Bd4 37.Bb8 Bxf2 38.Bxa7 Kg4 39.Bxb6 Bg3 40.a4**



**1-0**

クイーンサイドのパスポーンが止まらないため、ここで黒はリザインしました。他の 3 ボードも全て決着がついたことにより、4R 終了時点で 3.5p が 4 人となり、その中で優勝争いをするようになりました。

5R は幸運にも連続で白を引くことができ、オープニングから優勢を築け、勝つことができました。最終的にはタイブレークが味方してくれたこともあり、優勝という思いもよらない結果になったことはとても嬉しく思います。

2023 年を思い返してみると、1 月にはクローズドラウンドロビン大会で優勝、3 月には東京チェス選手権で優勝という最高のスタートを切れ、6 月には良い結果は出なかったものの初めて海外大会に

参加することができ、年内最後の大会であるクリスマスチェスパティーで優勝という良い締めくくりができたので、個人的には大満足の 1 年でした。1 年間充実したチェスライフが送れたのはスタッフの方々、プレーヤーの方々のおかげです。皆様には感謝申し上げます。

今年は 3 月にフランスで開催される Cappelle la Grande Open に参加する予定です。1 年の良いスタートとなるよう、頑張りたいと思います。



## 東海オープン 2024

堀江 貴広

2024 年 1 月 7・8 日、名古屋チェスクラブ主催「東海オープン 2024 (FIDE U2400)」が名古屋市東区の東桜会館にて開催されました。

クラブ記録等の資料に拠りますと 1976 年に第 1 回大会が開催されましたこの東海オープンは、前代表より引き継ぎ、名古屋チェスクラブの国内スタンダード定例大会として、幾度かの大会形式変更等の変遷を経て、長年開催されてきました。名古屋 CC ではラピッド戦の中部快速オープンを 2022 年より FIDE 公式戦として開催しておりますが、メンバー他会員より FIDE スタンダード戦開催希望の声もあり、昨年春頃より開催の検討を進めてきました。日程的には主流である 3～4 日間の大会開催は難しい事と判断し、2 日制 5 局で、対局者レート評価規定 (U2400) で可能な持ち時間 60 分 (+30 秒/手加算) での開催に至りました。

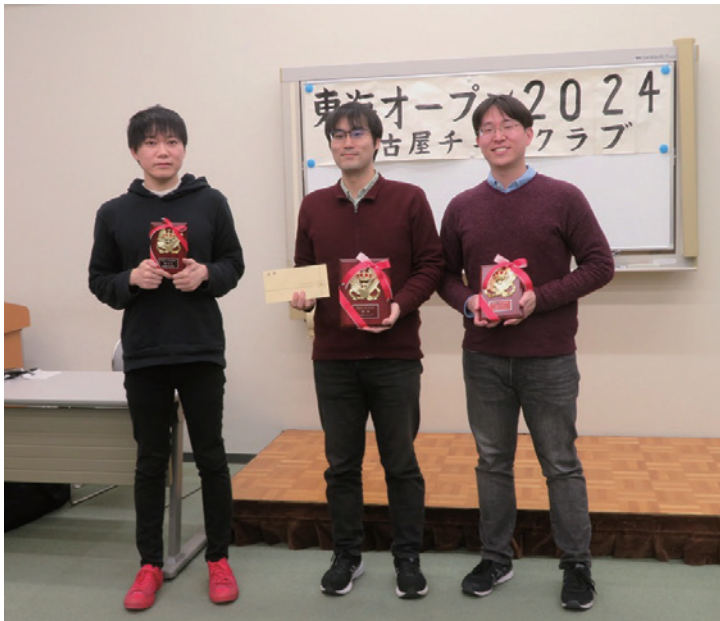
予想参加者数は年明けであり勝手ながら低めに見積もっており、対局会場もそれほど広くはないスペースを準備しておりましたが、予想に反し申込締切り 1 か月以上前にはほぼ最大定員の申込みを頂けたため、急遽大きな対局会場



を確保し、定員枠の増設を行いました。それに伴い入賞賞品の追加、また AB 各クラス 2 位の入賞を設けました。名古屋 CC 大会初参加の方も多数となる 38 名の方に御参加頂きありがとうございました。

オープン結果は、ポイントが並びタイブレイクの結果 IM 小島慎也さんが優勝となりました。他入賞者の皆様、おめでとうございます。

また主催者決定により、棋譜用紙、鉛筆セット・駒入バッグの奨励賞が2名の方に授与されました。



オープン表彰



A・B クラス表彰



第4R トップボードは全勝対決

形式：FIDE・国内スタンダード  
スイス式5回戦 60分+30秒/手

#### オープン

優勝	小島 慎也	4.5p/5
2位	篠田 太郎	4.5
3位	木下 晃	4.0

#### A クラス

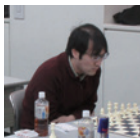
優勝	黒田 裕之介	3.5
2位	Takayasu Melody	3.5

#### B クラス

優勝	犬飼 琥太郎	3.0
2位	Diba Seyed Reza	3.0

チェスリザルツ：Chess-Results  
Server Chess-results.com - Tokai  
Open 2024





優勝者自戦記  
小島慎也

## 東海オープン

2024 年最初の国内大会である東海オープンは、リスト 1 のプレイヤーとしてなんとか 4.5/5 で優勝することはできました。こちらの大会から 1 試合ご紹介したいと思います。

□ Okabe, Yuma (1909)

■ Kojima, Shinya (2298)

Tokai Open 2024 (3.1)

1.e4 c6 2.d4 d5 3.exd5 cxd5  
4.Bd3 Nf6 5.c3 Bg4 6.Qb3 Qc7  
7.h3 Bh5 8.g4 Bg6 9.Bxg6 hxg6  
10.g5 Nfd7 11.Qxd5 e5



近年よく指されている Caro-Kann Exchange Variation の一変化で、白はポーンの形を崩してもポーンアップを実現します。白はしばらく駒得を維持できますが、黒に比べてキングの安全

性を確保することや、崩れたポーンの形をカバーしながら戦う作戦作りが難しく、コンピュータ評価の割に指すのが難しい印象です。

12.Ne2 Nc6 13.Be3 Nb6 14.Qf3  
0-0-0 15.Nd2 Kb8 16.Ne4 f5!

7 月の Japan Chess Classic では、この f ポーン捨てを考えたものの思いきれず、16... Be7 というやや緩い手を選択しました。その試合以降この変化を調べ直し、黒はさらなるポーン捨ても可能だと結論付けています。

17.gxf6 gxf6 18.0-0-0



18.Nxf6 Qf7! ならば、ピンになった白ナイトは負担になるでしょう。18.Qxf6 Bg7 19.Qxg6 exd4 も白のセンターポーンを崩し、黒は満足な展開です。

18... f5! 19.Ng5 Nc4! 20.dxe5

この手は予想外でした。白のみルークが連携しており、h2-b8 ダイアゴナルを活用できるので、局面を開くことは白に望ましいとの

判断ですが、e5 に跳べるナイトは f3,d3 といった重要なマスを抑えていて、強力であるという点も無視できません。代わりに 20.Kb1 Qb6 21.Bc1 Na3+ 22.Ka1 Nc2+ からのパペチュアルチェックが、試合中真っ先にイメージしていた変化で、これを蹴って勝負にいくか悩むところです。また 20.Ne6!? Qb6! がナイトフォークをかわしながら b2 へのメイトスレットを作る返し技になっており、2 回目の f ポーン突きのポイントになっています。

20... N6xe5 21.Bf4



試合後、岡部くんの当初の読みは 21.Rxd8+ Qxd8 22.Rd1 だったと試合後に教えてもらいましたが、これには 21... Qxd1+! 22.Kxd1 Nxf3+ とする手順があり、黒は大きく駒得です。

21... Bd6 22.Qg3 Qa5!?

この手で勝ちだと試合中は思っていました。それは過大評価だったようです。e5 のナイトに

守りをつけておき、それからじっくり攻める手としては 22... Rhe8 が考えられます。

### 23.a3?

これは決定的なミスで一気に黒が流れを掴んでしまいます。23.Kb1! Qb5 24.b3 Na3+ 25.Ka1 Qxe2 Rxd6! と進んだ場合、黒は Na3-Nc2+ のパペチュアルチェックくらいが無難な選択肢です。白が Qf3-Qg3 とクイーンをずらしたことで e2 のナイトの守りが消え、黒のチャンスだと思ったのですが、白の Rd1-Rxd6 が強烈な反撃でした。

**23... Qb5! 24.b4 Qa4 25.Rd4 Qxa3+ 26.Kd1 Qa1+ 27.Nc1 Rhe8--+**



黒はポーンを取り返したうえ、白キングを危険なセンターに追い返しました。ここで落ち着いて最後のピースをゲームに参加させれば、さらなる駒得を決めて黒勝勢です。

**28.Re1 Qa4+ 29.Ke2 Nc6+ 30.Kf1 Rxe1+ 31.Kxe1 Nxd4 32.Bxd6+ Nxd6 33.cxd4 Ka8 34.Qc3 Rc8 35.Qb2 Nc4 36.Qc3 Nd6 37.Qb2 Rc2 38.Qb1 Qc6 39.Kd1 Rxf2 40.Nd3 Rf1+ 0-1**

リスト 2 以下とのレーティング差を考えれば優勝しなければいけませんでした。そうした大会を勝ち切るというのは得てして難しいものです。今年最初の大会で良いスタートを切ることができましたので、続く大会でも良いパフォーマンスを残していきたいですね。





## Tournament Report Flipi Poggenpoel

Before recounting my most recent misadventures, allow me to share a thought for those impacted by the recent events in Japan. I think most of us enter a new year with general optimism, and to then be faced with such devastation is heart wrenching. I hope those impacted can find their way back to optimism in due time. And for us lucky enough to be uninvolved, perhaps even a simple Furusato Nozei could help show some support for the impacted areas.

Opening initiative gone, middle game advantage squandered, traded down into a perfectly symmetrical and drawn endgame, what a disappointing situation to find ourselves in. My head feels a bit thick and slow, but the position is a draw in the worst case and a win if my opponent gets confused (right?), so let me just play this move and.. yes that's correct. Correct in that I have just blundered a dead drawn game against an

opponent rated 446 points lower than me. Not a great way to start my second ever Fide rated event, but let's rewind a little bit.

Having taken an 8h-ferry and 3h-shinkansen ride the previous day to return to Osaka from the far-flung islands of Goto, the 8th of January saw me on a train towards Nagoya, bright and early for the Tokai Open 2024. The Tokai Open was a 5 round, Fide-rated event (classical 60+30) held over 2 days. Although the maximum of 40 players did register, due to some last-minute cancellations or similar the clocks only started on 19 boards when we kicked off round 1. I had caught a cold just a few days before and the travel schedule and lack of solid sleep were weighing heavily on me – but we have all been looking forward to this tournament since 2023! During my opponent's long thinks you could find me huddled in the hallway, trying to get more comfortable without losing sight of my board. Thankfully my condition, my results and my mood improved considerably throughout the event.

Round 1: Black in a Sveshnikov I still find that most players do

not know the best continuation for white in this opening and black can get a bit of easy initiative. This game went that way too and after damaging white's pawn structure I was able to get a fair advantage in the late middle game. Sadly, after looking at the winning move in the middle game for a few minutes (engine says -6) I discarded it and traded into a semi-, and then truly drawn endgame. At which point we are back to where I realized that the 400-point rule isn't all that irrelevant after all, given that I have just thrown the game away against someone rated 446 points lower. Well done me and, less sarcastically, well done my opponent for keeping up the fight.

Round 2: White in a Grunfeld My lack of preparation showed somewhat in round 2, as I misplayed the opening and had to choose between losing a pawn or wrecking my king's shelter with gxf3. Black found a further option where they could win the pawn eventually, but could first take another set of minor pieces off the board. The probable oversight on their part was that it opened the d-file, giving me an unopposed Rd7

and the initiative. Having burned a lot of time early on already, they were down to a few minutes soon, resulting in an eventual oversight where they sacrificed their remaining bishop for a checkmate attempt that was flawed: Following Rc1+, Black allowed me to take their bishop but got in Qe1 and was looking forward to Qh1#. Thankfully I could still return my lifted rook with Rd1, breaking their piece coordination and winning the game.

Round 3: Black in a Wing Gambit

In the last round of day 1 I was the one burning time. 1.e4 c5 2.a3 Nc3 3.b4 and I was stumped. I know the plan for white if the gambit is accepted, but how do I decline the gambit without serious problems regardless? 10 minutes went by before I played 2..e5, allowing white to dislodge my knight twice and putting it down in front of my king with Ne6. Undeterred, white kept on blitzing move after move while I had to slowly pick my way towards king safety. And then, just when my 0-0 was within reach, white continued with Ng5, and after I took it there was Bg5, and after they took on f6 there was Qh5+. Eventually



though most minor pieces were off the board and with fxe6 I had double my e-pawns and created some imbalance. Qe8 and white agreed to trade off the last of their active pieces and enter a probably-bad bishop / probably-good knight game. Finally my opponent also slowed down and I could sit back in my chair and breathe a little easier. At a slower pace we continued, each trying to find a plan in the mass of pawns and remaining few pieces. Luckily white made the bigger inaccuracy soon after and I was able to get in Rb7, allowing my infiltrating rook to coordinate with my perhaps-not-so-bad

bishop to make trouble in white's camp. Then, following a piece blunder by white, I had the game in hand and my adrenaline could slowly get flushed out on the way to dinner.

With a +1 score behind me and a warm meal, hot shower and (unfortunately dusty?) bed in front, I was in good spirits as we left the venue after day 1. I am repeating myself but, the social aspect of OTB chess is a key ingredient for me and I highly recommend to all participants at events to get to know a few other players, perhaps even make a few friends.

Round 4: White in a King's



Indian Defense (KID)

Something I want to compliment the event for is how fast the rounds were updated onto [chess-results.com](http://chess-results.com), a website that I think is fantastic. This fast processing also gave round 4 a unique point in that pairings were available well in advance. I was facing a fellow Osaka participant and tried to look up a few of their games, but realized it's likely going to be a KID and decided to watch YouTube instead. I have come to dislike the KID quite a bit recently and have also come to realize that most players I face don't know all the theory either, and we usually splash around in the middle game looking for dry land or some tactic to focus on. Come game time and sure enough, a few moves in we were out in the wilderness of this frustrating opening, each taking about equal chunks of time to slowly work our way through the board's position. Frankly speaking I think black got the better of me, but by that time we were playing blitz and many mistakes go unpunished in such situations. After near missing a few blunders and tactics myself, I finally caught black making a

mistake and it was Q/B vs Q/R, with Rf7+ being the start of my eventual winning of the game (another game where I eventually get a rook infiltrated into my opponent's camp). A nailbiter to the very last move and now we only had 20 minutes before the final round would commence - so off we went for a quick convenience store lunch. Shoutout to SheldonOfOsaka, who realized first they had flagged and decided to troll me by slamming their queen down next to my king and announcing "checkmate!" My chess career flashed before my eyes in that moment (I recommend their chess blog on [chess.com](http://chess.com) - always a fun read).

Round 5: White in another Grunfeld

The final round, where I would face Mr. Nagoya himself (the only game I finally faced a higher rated opponent after accidentally playing a Swiss Gambit in round 1). We have met various times by now but have never sat opposite each other. The game turned out to be another Grunfeld, and a pawn-sacrifice line at that. I was already out of book on move 10 or so, where black's b6 allows

white to play dxc5 and if black declines the queen trade with Qc7 then white has xcb6 (in a very informative post-game discussion I was shown that Nd4 is the better follow up for white here). In the game though, I quickly came to realize just how worthless this extra pawn really was. Black had an incredibly easy game plan with developments and threats springing forth with ease, while I had to try and make some sense of what exactly my plan was going to be. Fast forward a bit, and after a particularly dubious move on my part, black went Ng4 and threatened to end the game on the spot with Qxh2#. Not only did I not see this idea, it was only stoppable by losing a piece, the exchange or a center pawn (Given my original pawn-up position, I end up trading an a-pawn for an e-pawn.. terrible). Thankfully I found the pawn-losing line eventually, but regardless the position just went from bad to worse. Fast forward some more and we are in the endgame. Black has the two bishops and an extra pawn, while white has a tummy ache and is desperate for a draw. The engine shows it's all over, but actually the



game after the queens came off was one of the highlights of my tournament. The tantalizing chance of holding such a terrible endgame against this opponent, I was suddenly loving it. Eventually however reality came knocking - black traded off the correct bishop for my knight, and then the other two bishops also came off and I had no way to hold the opposition against their king due to their extra pawn. A pity to lose, but a great game for me and my chess learning.

And then it was time for the

closing ceremony. I will be honest, for most events I do not stick around for this part as I prioritize going home, relaxing, and getting ready for work etc (also I don't normally win much). In this instance though, apart from coming so far for the event, the experienced tournament director and chief arbiter were a step ahead and they had prepared sweets, pens and our results sheets (which I don't think I've ever gotten after an event before?! It was so nice to receive it).

Then, after saying all our

goodbyes and see you next time, it was time to go home and reflect. On the train back to Osaka, thinking back across the two days and various games, the tactics, the surprises, the highs and lows, I was once again so happy to have made the effort to go participate and wondered when the next event might be. In the meantime, at least the new season of the online Lichess4545 team league is about to kick off (I highly recommend this also - lichess4545.com).

## 北米企業対抗チェスリーグ Season8 観戦記② チーム紹介

堀江亮佑

今回は、北米企業対抗チェスリーグ (NACCL) に参加するチームの紹介をする。といっても、参加チームは合計 42 チームもあり、これを全て書くと確実に胃もたれする。

というわけで、本記事ではその 42 チームの中から、5 チームをピックアップして紹介する。どれも見どころがたくさんあるチームだ。

では、行ってみよう！

### 1. Google

最初に紹介するのは Google だ。ビックテックの雄、GAFAM の G など、日本でも知らぬものはいないレベルの大企業である。さて、そのような圧倒的な知名度と規模を誇る大企業だが、チェスもそれに見合うほど強い。

このチームの一番の見どころはシンプルに隙が無いことだ。バスケット漫画で例えるなら、『黒子のバスケ』の洛山高校、『SLAM DUNK』の山王工業高校だ。GM こそいないが、IM をエースに据

え、他のチームではエース級の準マスターのプレイヤー 7 人で脇を固める。まさに盤石。「勝つべくして勝つ」を体現したかのようなチームだ。当然、実績も申し分なく、全 8 回のうち、Season2、3、5、6 の 4 回優勝とまさに王者にふさわしい。今回も優勝候補の筆頭である。

### 2. SYMETRA

2 番目に紹介するのは、SYMETRA だ。アメリカの生命保険会社であり、あまり日本はなじみのない会社だが、2015 年に住友生命保険相互会社を買収されており、意外にも日本との関係がある会社だ。

このチェスリーグには初参戦だが、ただのルーキーではない。このチームが他のチームとは圧倒的に異なる点は、GM が 2 人いることだ。(今回 4 人も GM が参加している原因はこのチームである) さらに GM を支えるのは、IM2 人という、まさに暴力的な強さと言えよう。初参戦にして、ドリームチームをぶち込んできたといっても過言ではない。この驚異の超新星が、並み居る強豪にどう立ち向かうのか。今大会の台風の目である。

### 3. SIG (Susquehanna Intl Group)

3 番目に紹介するのは、SIG (Susquehanna Intl Group) だ。これまた日本ではあまりなじみのない会社だが、オプション取引では大手といわれる会社で超高速取引に定評がある。企業活動の字面だけでも、十分に賢そうだと思ってしまうが、チェスの方も十分に強い。このチーム最大の見どころは、ネットチェス界の帝王がいるということだ。その名を Andrew Tang、またの名を penguinim1。Lichess のランキングで、世界ランク 1 位に君臨し、Bullet で驚異の 106 連勝をしたこともある、まさにネットチェス界の帝王だ。そのような彼が所属するチームだが、彼以外にも十分に実力者が揃っている。それは、彼がチームに所属する前の Season1 に優勝を果たしていることからわかる。Season1 で優勝以来、Google の後塵を拝している状況だが、今回はいかに。



#### 4. Deloitte

4 番目に紹介するのは Deloitte だ。日本ではデロイトトーマツの名前で知られているかと思う。監査、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザリー、税務などの幅広い分野での業務を提供している。

このチームの印象は、隙がない。この文句は Google と同じでは？と思った方鋭い。実はこのチーム、Google とそっくりなのである。エースには IM を据え、それを支えるのは重厚な準マスター集団。まさに Google の生き写しである。当然、ライバルも Google である。Season4 で優勝した時は Google とデッドヒートを繰り広げ、ギリギリで優勝している。前回の Season7 では、エースの IM が不在のため失速し、4 位という結果に終わったり、Season5 では、脇を支える準マスター集団の予想外の失速を受けて 15 位に終わったりするなど、時折暴発するが、それ以外では、2 位や 3 位を複数回獲得している安定感抜群のチームである。今回、打倒 Google を成して、優勝できるのか、期待がかかる。

#### 5. PwC

最後に紹介するのは、PwC だ。日本でも PwC あらたの名でご存じの方が多いと思う。デロイトの同業他社であり、監査、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザリー、税務などの幅広い分野での業務を提供している。

さて、このチームだが、言ってしまうと、初出場の Season5 では 14 位とそこまで注目すべきチームではなかった。しかし、回を追うごとに成長をする、まさに主人公気質のチームへと変貌を遂げている。事実、Season6 では 6 位、Season7 では 9 位と 1 桁順位を安定して獲得するようになっている。この功績には 1 人の GM が関わっているのだが、それは後でのお楽しみだ。

さて、ここまで 5 チームを紹介してきた。どれも、様々な魅力があるチームだと筆者は思っている。

では、次回より皆さんお待ちかねの GM の棋譜紹介だ。魅力抜群の棋譜を紹介することをお約束しよう。乞うご期待！

# Interview

## インタビュー

### 石井 仁蔵さん

#### チェスの楽しみ方に 小説という選択肢を

いしい じんそう

石井仁蔵さんは小説『エヴァーグリーン・ゲーム』の作者です。チェスを正面から取り上げたこの作品で第12回ポプラ社小説新人賞を受賞されました。映画監督によるショートムービーが制作されるなど、話題となっているこの作品について、お話をお伺いしました。



写真：金澤正平

このたびは第12回ポプラ社小説新人賞のご受賞、おめでとうございます！ 受賞はどのように知らされたのでしょうか？ 時期や、その時のお気持ちをお聞かせください。

昨年2月にポプラ社さんからお電話をいただきました。仕事中だったので一度受け損ねてしまい、ドキドキしながら掛け直したのを覚えています。受賞したとわかるや、興奮のあまり建物の裏に行っ、子どものように飛び跳ねました。電話をもらうまでは「どうせダメだろう、最終に残ったのも頭数あわせくらいの意味なんじゃないか」と悲観的に構えてもいたので、余計に嬉しかったです。

作品のタイトル「エヴァーグリーン・ゲーム」に込めた思いをお聞かせください。

アンデルセンの名局を知り、格好いい名前だなあと印象に残っていて、タイトルにしたいと思いました。棋譜を見ると、大逆転に思えるドラマチックな結末の対局であり、物語にもリンクさせたつもりです。「エヴァーグリーン」を辞書で引くと、「衰えを知らない」「常に人気のある」という意味があって、これはチェスというゲームそのものをも表しているなと感じ、これで行こうと決めました。

第1章の題名は「メイトスレット」です。どうしてこの用語をこの章の題名となさったのか、ネタバレにならない範囲で教えてください。

第1章の主人公である透は、難病のために長期入院を余儀なくされている少年です。命にも関わる病であり、チェスで言うなら、敗北の脅威にさらされている状態＝メイト・スレットと表現できると思いました。人生とチェスを重ねるというのが、本作で意識した部分でありますし、各章にチェス用語をつけたいと思っていたのもあります。小説全体を織りなすうえでのテクニカルな意味合いもあるのですが、その辺をつぶさに語るのも無粋ですので、割愛させていただきます。

第2章は「ツヴィシェンツーク」です。相手の駒が取れるのにすぐには取らず、別の手を指してからその後で取るといった、チェスではとても重要な技を指す用語で、将棋の「一本、効（き）かす」に相当しますが、一般には全く馴染みのない言葉です。これを章題に選ばれた理由を教えてください。

「自然な流れをあえて遮り、あいだに差し挟む効果的な一手」という理解で、この語を用いました。第1章の流れを遮りつつ、物

語＝局面を展開する章という意味を込めています。普段どおりの日常から離れた思いがけない出会いや出来事が、次の何かを生み出すという、第2章全体を表したたえでもあります。

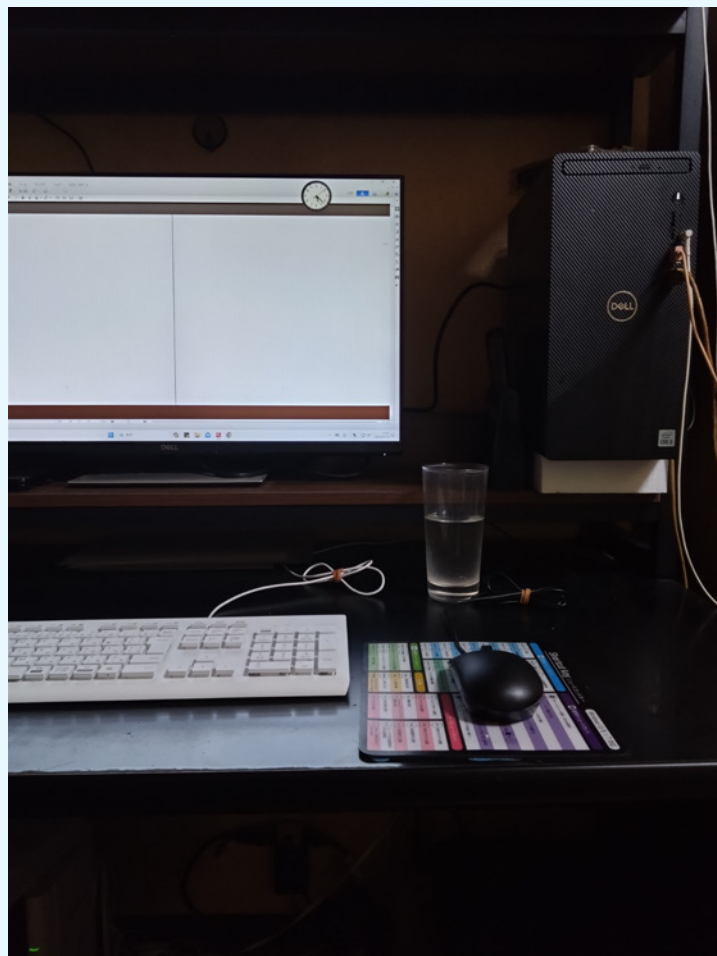
以下、第3章が「プロモーション」、第4章「デスペラード」、第5章「チェスマン」、第6章「オープニング」となります。これらが何を指すかは、会員の皆さんが読まれたときのお楽しみとしておきましょう。

さて、今度は石井さんご自身のことをお伺いします。ポプラ社のHPで石井さんはご自身のことを「約20年、小説の投稿に明け暮れた人間です」とお書きになっていらっしゃいます。この20年をどのようにお過ごしになられたか、お差し支えなければ少し具体的にお聞かせください。

正直な話、冴え冴えしい話はまるでありません。振り返ってみても楽しい思い出なんてほとんどないし、前向きになれるものといえは、小説を書くことくらいしかありませんでした。大学時代は孤独と挫折にまみれていて、社会人になってからも、仕事ではうまく行かないことの繰り返しでした。具体的に話したら、なんだかとても哀しい気分になりそうなので、ご容赦ください。ただ、過去に対する捉え方のいくらかは、物語終盤における透の独白の中に反映されています。

ダヴィンチのインタビューで石井さんは「この小説を思いつく前から、チェスは好き」で、「深夜にずっとオンラインでチェスをしていて、やめられなくなった経験があります」とおっしゃっています。チェス連盟の会員にとって、とても親近感を覚えるエピソードです。その頃のことを少しお話いただけますか？

オンラインでは無言の駒のやりとりにひりつくような感覚を抱きますし、一方、ボットとの対局は



石井さんのお仕事場



気軽に何度でもチャレンジできます。タクティクスの問題は「もう少し考えれば解けたのに！」といつまでもやめられなくなるような、独特の中毒性があります。欧米圏には配信者がたくさんいるので、彼らの配信を延々と眺めることもしばしばでした。チェスが世界的な娯楽であると実感し、いろいろな形の楽しみ方があるなと感じたのも、チェスの小説を書こうと思った要因かもしれません。

**チェス以外のご趣味とか、気分転換のための習慣が何かございますか？**

映画を観ることです。近頃は本数も少なくなっていました。以前は毎日のように観ていて、映画評のブログをせっせと更新していました。好きな作品は『バトル・ロワイアル』『ソウ』『ミスト』のようなダークかつ刺激的なタイプのもの。反面、『トイ・ストーリー』『ズートピア』のように明るく鮮やかな、ディズニー・ピクサー系も好

きです。それと、本当はテレビゲームが好きなのですが、やり出すとはまってしまうので、代わりにゲーム実況のYouTubeなどもよく観ます。ひとつのレトロゲームをプレイし続けているチャンネルがあり、チェスに通ずる探究の趣を感じたりもします。

**ダヴィンチのインタビューの写真では石井さんは帽子をかぶっています。帽子がお好きなのですか？**

特に好きだというわけではなく、ファッションやヘアスタイルにも無頓着です。インタビューのときは、それでも多少は身なりを整えねばならぬと、ささやかな武装を施すくらいの気持ちでした。

**これから先の作品について、「僕が書きたいものと求められるものの差を埋めていくのが、今後のいちばん大きな課題」とおっしゃっています。今後「書きたいもの」を、こっそり、教えていただけますか？**

ギャグ満点のナンセンスなものや、ピクサー作品のような独自の世界観のもの。それらとは別に、政治に切り込んで社会を挑発するようなものです。文芸市場のメインストリームではないようなので、出版社の方にはなかなか受け入れてもらえないのですが、いつかは書きたいなと思っています。

**本日は長時間、ありがとうございます。今後のご活躍をお祈り申し上げます。そしてチェスをテーマにした次回作、「今はまだ考えられていません。チャレンジはしてみたいですけどね」とおっしゃる作品の誕生をのんびり気長に、でもしっかり、お待ち申し上げます！**

(聞き手：神田大吾)

参考資料：

[1. エヴァーグリーン・ゲーム | ポプラ社 \(poplar.co.jp\)](http://poplar.co.jp/)

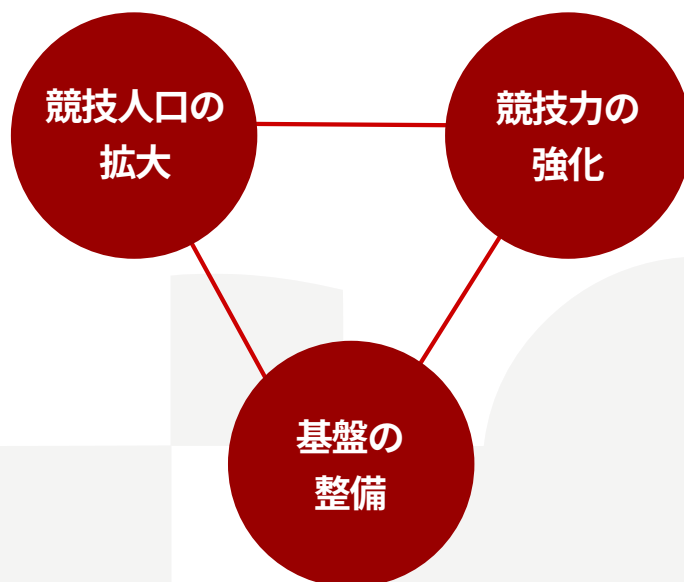
[2. 『エヴァーグリーン・ゲーム』 作者「自分の中で物語が出来上がっていたからこそ、最後まで書き進めた」第12回ポプラ社小説新人賞受賞・石井仁蔵インタビュー | ダ・ヴィンチWeb \(ddnavi.com\)\)](http://ddnavi.com/)



好評発売中！ ご購入はこちら。

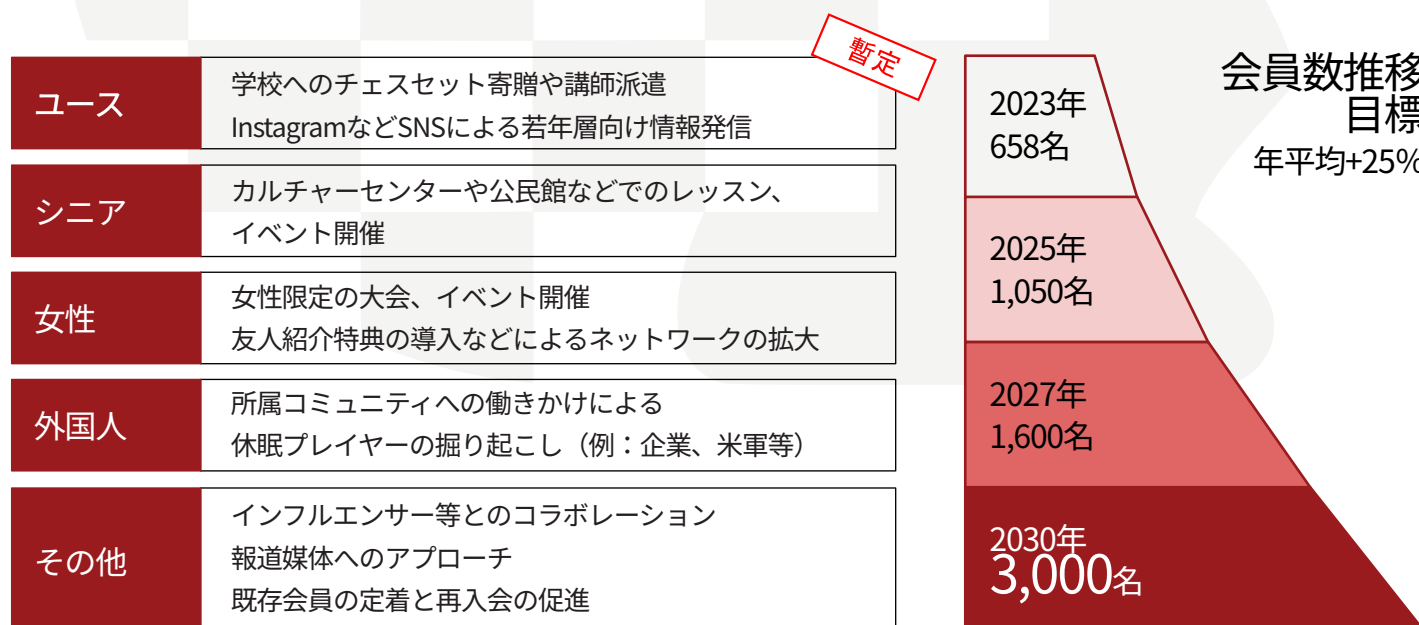
## Vision 2030とは？

「Vision 2030」はチェスが日本において浸透し、その普及と発展が持続する未来を実現するために、活動の方向性を示すものです。「競技人口の拡大」「競技力の強化」「基盤の整備」を大目標として掲げます。



## 競技人口の拡大

年齢、性別、国籍を問わずチェスに触れられる機会を増やします。セグメント別に取り組みを進め、2030年に会員数3,000名まで拡大することを目指します。



## 競技力の強化

世界で活躍するプレーヤーを継続的に輩出し、入門者が体系的に学習できる環境を整えます。国別オープン順位70位（トップ10平均2350、現状比+100）、国別女子順位80位（トップ10平均1750、現状比+100）、オリンピアド順位50位以内を目指します。

GM/IM 輩出	海外からGMやIMを招聘し、ノーム大会を開催 GMやIMを目指すプレーヤーへの支援プログラム
-------------	---

ユース 強化	ユース同士が交流し、切磋琢磨できる機会を提供 （例：ユース向け大会、強化キャンプなど） 海外からプロコーチを招聘
-----------	--

学習環境 整備	日本語教材の作成 国内の公認指導者の養成 アチーブメントの細分化と多様化
------------	--

タイトル 保持者数*	2023年 実績	2030年 目標
GM   WGM	0   0	1   0
IM   WIM	2   0	4   0
FM   WFM	6   1	10   3
CM   WCM	8   3	15   5
合計	16   4	30   8

\*一部非アクティブプレーヤーを除く

## 基盤の整備

「競技人口の拡大」「競技力の強化」の目標を遂行するため、日本チェス連盟と公認クラブの連携を強化し、双方の活動量向上を目指します。日本チェス連盟のアクションプランと公認クラブ活発化の目標を設定しました。

組織体制の 高度化	常設チェスセンターの設立 年間予算の拡大 従業人員の確保
--------------	------------------------------------

公認クラブ 活性化	公認クラブ数の拡大 公式戦の開催数増加
--------------	------------------------

**Chess Center UENO** オープン！  
年間予算3,000万円到達  
常勤役員1名、常勤従業員2名 など

公認クラブ数60  
各地方で毎週末クラブ主催大会開催 など





チェスファン待望の常設チェススペース「Chess Center UENO」が、日本チェス連盟創立5周年の記念日に当たる2024年2月1日にグランドオープンしました！ オープン当日には、CM Tran Thanh Tu選手による同時対局イベントを行い、多くの方々にご参加いただきました。





同時対局の前後に参加者同士の自由対局を行いました。どのボードでも熱戦が繰り広げられていました。



オープン  
特別価格

各部  
入場料

500円

営業  
時間

木曜日

日曜日



チケットご購入  
(Peatix)



Chess Center UENO

東京都台東区北上野2-11-3シルバークラウド101

Access :

東京メトロ日比谷線 入谷駅 徒歩8分  
東京メトロ銀座線 稲荷町駅 徒歩9分  
JR/東京メトロ 上野駅 徒歩11分

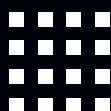
公式HP : [リンク](#)

お問い合わせ : [info.chesscenterueno@gmail.com](mailto:info.chesscenterueno@gmail.com)



1人でもOK

スタッフが相手します！



各部最大16人

みんなで一緒に！



保護者の付き添いOK

未成年1人につき1人まで無料

所在地  
(Google Map)



## 概要

日本チェス連盟は創立5周年記念施策の一つとして、2024年2月1日に「日本チェス殿堂」を創設しました。「日本チェス殿堂」は、日本チェス界において長期間にわたり優れた功績を残した人物の栄誉を称え表彰し、その業績を後世まで記録に残します。毎年2月1日に受賞者を発表し、同年の「全日本チェス選手権」にて表彰を行います。ただし、該当する人物がいないと理事会が判断するときは、該当者なしとする場合もあります。

## 対象

長期間にわたり優れた功績を残した人物を表彰の対象とします。以下に例を示しますが、これらに限定されるものではありません。

- ・プレーヤー
- ・アービター
- ・オーガナイザー
- ・クラブリーダー
- ・インストラクター
- ・トレーナー

## 表彰

受賞者に対して、以下の通り顕彰を行います。

- ・受賞年の「全日本チェス選手権」初日において表彰を行い、記念品を贈呈
- ・日本チェス連盟のウェブサイト等に「日本チェス殿堂」のコーナーを設置し、歴代受賞者の名前および業績を掲載など

## 第1回受賞者

故 権田 源太郎 氏

### 受賞理由

1971年から2001年にかけて12回全日本チェスチャンピオンに輝き、1972年から2002年にかけてチェスオリンピック日本代表を4度務めるなど、長きに亘り日本のトッププレーヤーとして日本チェス界を牽引し続けたこと。

### 表彰

2024年5月開催予定の「全日本チェス選手権」にて表彰式を行い、記念品を贈呈します。





## 概要

「年間表彰」では、年間で優れた成績を収めたプレーヤーや、日本チェス界に大きく貢献した人物もしくは団体を表彰します。本制度は2024年1月から12月までの期間における表彰を初回とします。「強い」ことだけでなく多角的な賞を設けることを予定しています。詳細については後日発表いたします。



# アービターに なってみませんか？

～チェス界のインフラ整備を願って～

文／阿部裕太



## はじめに

本記事では、チェス大会の審判の役割を担うアービターについてお話ししたいと思います。

私事ではありますが、昨年8月付でFA (FIDE Arbiter; アービターのタイトルのひとつ。詳しくは後述します)のタイトルを獲得しました。続けて12月、岡部友紀さんも同じくFAタイトルを取得いたしました。現在日本でアクティブに活動しているFAは私と岡部さんに加えて山田明弘さんの計3人になります。

さて、どうしてこんな話をするのかといいますと、近年の日本のチェス界の事情に大きく関係するからです。



FAタイトルの certification

## アービターを増やす 必要性

日本チェス連盟の大会によく参加される会員の方は心当たりがあ

ると思うのですが、このところ大会のエントリーが募集開始してからすぐに上限に達してしまいキャンセル待ち、ということが珍しくありません。これは日本でチェスの世界に足を踏み入れた人がどんどん増えてきていることにほかなりません。一見喜ばしいことのように思えますが、その一方で大会の運営にあたってのリソースが追いついていないとも言えます。これからの日本のチェス界の発展を考えるにあたって大会を含むチェス関連のイベントを動かすためのリソース拡充は喫緊の課題です。収容人数が大きな大会会場を安定して抑えることが難しいというのが一番の課題だとは思いますが、それ以外にも大会開催に不可欠なアービターも慢性的に不足しています。競技会である以上、審判役としてアービターは必ずいなければいけません。これから日本で大きな大会の開催や、開催頻度を増やしたりするには、それだけアービターもたくさん必要になります。(もちろんアービター以外のスタッフや会場の確保も重要ですが...) そういう意味で、アービターを増やすことはある種チェス界のインフラ整備ともいえる取り組みだと私は考えています。

## アービターの役割

アービターの役割は大まかには審判のようなものだと思っていただければイメージしやすいと思いますが、もう少し深く突っ込むのであれば、プレーヤーが競技に100% 集中できるように最大限サポートするのが本義です。大会に出ていると、アービターが大会当日の進行管理、試合結果の確認やペアリングの発表、各ラウンド開始前の設営、イリーガルムーブなどのアクシデントがあった時の対応など、様々な仕事をこなしているところを目撃すると思います。これらはすべて大会に参加しているプレーヤーの皆さんが気持ちよく試合に臨めるようにという思いで我々は取り組んでいます。

## アービターのタイトル

アービターのタイトルには、International Arbiter(IA), FIDE Arbiter(FA), National Arbiter(NA) の3つがあります。このうちFAとIAの取得にはNormが必要になります。

FAのタイトルを取るには全部で4つのNorm、ざっくりと(1)アービター試験の合格と(2～4)一定以上規模のFIDE公式戦の大会

で実務 3 回が必要です。試験については、FIDE の Arbiter's Commission が開催するセミナー（4日間）を受講すると最後に受験することができます。だいたい全部で 50 問くらいの英語による論述形式です。難易度としては、Arbiter's manual という 300 ページくらいのテキストがあるのですが（FIDE のページからだれでも入手できます）、これを読めば答えられる程度のもので、ただし問題はケーススタディチックなものがほとんどで、不慣れな言語でそれなりの文章量を書かされるため時間内に解ききれるのかということも含めるとなかなか大変です。これがひとつめの Norm。

残りの Norm、FIDE 大会の実務 3 回ですが、実務 3 回の内訳はスイス式／ラウンドロビン／その他の形式（チーム戦やノックアウト式など）の 2 種類以上含まれていないといけません。ただしスイス式だけは例外で、3 回目が 100 人以上の規模である大会の場合は 3 回ともスイス式でも OK とされております。

日本で FA をとる人がこれまでほとんどいなかった理由の大きな要因が、この実務 3 回の Norm のハードルの高さです。スイス式／ラウンドロビン／その他の形式の 2 種類以上、もしくは 100 人規模 1 回を含むスイス式 3 回。これは少し前までの日本ではラウンドロビンとチーム戦の FIDE 大会はやっていなかったし、100 人規模のスイス式も昨年のジャパンオープンで初めて 100 人を越えたという状況で日本国内だけでは達成不可能だったため、Norm 取得には実質海外遠征が必須でした。

今では前述の通り 100 人規模のスイス式も開催できましたし、



2023 年1月に 8x8 チェスクラブによって開催されたラウンドロビン大会  
FIDE / NCS スタンダード公式戦

昨年 1 月にはラウンドロビンの FIDE 大会を 8x8 チェスクラブが開催してくれましたので、これらと絡めることで FA Norm をそろえることができるようになりました。私と岡部さんが FA タイトルを立て続けに取得できたのにはこういった背景がありました。

IA のタイトルに関しては必要な Norm は FA Norm と同じ内容で実務が 1 回分増えます（ただし FA タイトルを取得した状態でないといけません）。

## NA タイトルの制度化の取り組み

ここまでノームが必要な FA と IA について述べてきましたが、NA については FIDE ではなく、各国の連盟で定めるタイトルになります。取得条件も国ごとにまちまちで、現在の日本チェス連盟ではこれを明確に制度化できていないのが現状です。（私が NA を取得したときはまだ日本チェス協会が運営していた頃だったのでそちらの取り決めに沿って取得しました。）

アービターを増やす取り組みが必要だと記事の序盤で述べましたが、そのためにまずは NA タイ

トルの制度化が必要です。現在私をはじめ有志のチェス連盟スタッフで NA タイトルの制度化の準備を進めているところになっております。まだ公式に発表できる段階ではないので詳しくは述べませんが、具体的には、アービターセミナーの日本語テキスト作成、NA タイトル付与条件や運用についての議論などをすすめているところです。これについては近いうちに発表&運用開始できるよう精一杯取り組んでまいりますので、アービターに興味を持っていただいた方は楽しみに待っていただければ幸いです。

## さいごに

ここまでアービターに関して書いてきましたが、本記事序盤でも述べたように、アービターを増やすことはチェス界の発展において重要な課題のひとつです。アービターが少ない今の状況なら、1人がアービターを志すだけでも日本のチェス界への大きな貢献となることでしょう。本記事を読んで我こそはという方が 1人でも多く現れることを願ひまして本記事の結びとさせていただきます。最後まで長文にお付き合いいただきありがとうございました。



# 名プレイヤーから学ぼう

## Learn From Legends

### vol.8 Vasily Smyslov

#### Vasily Smyslov (ワシリー・スミスロフ, 1921-2010)

ソビエト連邦出身の第7代世界チャンピオン。卓越した序盤研究、深い中盤の理解、正確な終盤をあわせ持ち、「ソビエト・チェス・スクールの申し子」とも言えるスタイルで長期間トップクラスのプレイヤーとして活躍した。チェスオリンピアードで獲得したメダル数17は、史上最高記録である。

プレイヤーとしてだけでなく、プロBLEM作家やオペラ歌手としても活躍した。特に歌手としては、ピアニストであったGM Taimanovとともに、チェス大会の最中に何度もリサイタルを行ったことでも知られている。



Vasily Smyslov (Wikipediaより)

チェスの歴史を振り返るこのシリーズも、少しずつ現代と呼べる時代に入ってきました。今回紹介する第7代世界チャンピオン、Vasily Smyslovは第2次世界大戦中に力をつけ、戦後に台頭したプレイヤーの一人です。

Smyslovは1921年にモスクワで生まれました。6歳で父親にチェスを教わったSmyslovは、14歳のときに本格的に競技生活をスタートさせました。シンプルな局面の奥深さを教わり、エンドゲームの学習を通してピースの効率的な動かし方を学んだといいます。他にも様々なチェスの書籍を読んで、先人のテクニックを深く研究したSmyslovは、20歳のときにはソ連選手権で3位に入るなど世界で戦える実力を身につけました。

しかしSmyslovの強さが世界に知れ渡ったのは、第2次世界大戦が終わり、国際的なイベントが復活するようになってからでした。

大戦直後の1945年9月、ソ連vsアメリカのチームマッチでSmyslovはソ連チームの2番ボードをつとめました。このマッチは、Uedeman codeといわれる棋譜表記を用いて、ラジオを通して手を送信する形式で行われました。インターネットが発達した現代では、家にいながら海外のプレイヤーと対戦することは日常となっていますが、当時は海を超えてリアルタイムにチェスをプレーするのは、画期的

【文】山田 弘平 (やまだ こうへい)

1988年北海道生まれ。FIDEマスター/FIDEインストラクター。国内大会の優勝、日本代表経験あり。日本初のスポンサープレイヤーとして活動する一方、オンライン講座で普及活動も行っている。



な出来事だったでしょう。

当時のソ連とアメリカのチェスには大きな実力差がありました。アメリカ側でソ連に対抗できるプレイヤーといえば、経験豊富な Reshevskyが挙げられます。そこでアメリカはBotvinnikとの対戦をDenkerに任せて、2、3番ボードに主力であるReshevskyとFineを置く戦法を取りました。かくして、若きSmyslovはアメリカのトッププレイヤーである、Reshevskyと2戦マッチを行うことになります。

#### Smyslov, V

#### Reshevsky, S

USSR - USA Radio match 1945

1.e4 e5 2.Nf3 Nc6 3.Bb5 a6  
4.Ba4 Nf6 5.O-O Nxe4 6.d4 b5  
7.Bb3 d5 8.dxe5 Be6 9.c3 Bc5



Smyslov - Reshevsky 9...Bc5まで

1ゲーム目は、Open Ruy Lopezの一変化になりました。これは当時メジャーではなかったものの、この時期のソ連プレイヤーたちが研究を重ねていた定跡の1つです。

ソ連国内のトーナメントで活躍していたSmyslovは、この定跡のポイントをReshevskyよりも良く理解していたと言えるでしょう。

#### 10.Nbd2 O-O 11.Bc2 f5

現代では11...Nxf2! 12.Rxf2 f6!と、いきなりピースを捨ててfファイルを開く手が定跡として知られています。以下、13.exf6?! (13.Nf1!がベスト) 13...Qxf6?! (13...Bxf2+ 14.Kxf2 Qxf6) 14.Qf1!と進んだ局面は、1943年にSmyslov - Botvinnikのモスクワ選手権で指されています(白のSmyslov勝ち)。

#### 12.Nb3 Bb6 13.Nbd4 Nxd4 14.Nxd4 Bxd4 15.cxd4

白はオープニングの成果として、ビショップペアを手に入れました。黒はe4のナイトを活かして、積極的に攻撃を仕掛けます。

#### 15...f4 16.f3 Ng3!?

16...Ng5? 17.h4! Nf7 18.Bxf4 Qxh4 19.Qd2では、白の2ビショップの威力に対抗できません。

#### 17.hxg3 fxg3



Smyslov - Reshevsky 17...fxg3まで

次に18.Re1?!だと、18...Qh4 19.Be3 Qh2+ 20.Kf1 Bh3!から黒の攻めが続く形です。焦ってしまいそうな局面ですが、Smyslovは冷静に対処します。

#### 18.Qd3! Bf5

ビショップとクイーンのバッテリーを作って反撃します。18...Qh4? には19.Qxh7+!から白が有利なエンドゲームとなるため、黒は18...Bf5と出ますが、そこで用意の一手があります。

#### 19.Qxf5!

クイーンサクリファイス!ここはまだSmyslovの研究範囲です。

#### 19...Rxf5 20.Bxf5 Qh4 21.Bh3 Qxd4+ 22.Kh1 Qxe5 23.Bd2



Smyslov - Reshevsky 23.Bd2まで

なかなか見ないアンバランスな局面になりました。白のルーク+ビショップ2つに対して黒はクイーンといくつかのポーンを持っています。黒のパスポーンも強力ですが、ピースが多いので白の方が攻められる局面です。

このアイディアは、数年前にソ連のプレイヤーであったBoleslavsky

が指したものです。まだまだ研究段階で、Smyslov自身が「どちらが良いか、結論は出ていない」とコメントするほど、複雑で難しい局面です。

#### 23...Qxb2

23...c5?! 24.Rae1 Qxb2 25.Bf4 Qf6? 26.Bxg3 d4 27.Re6 Qg5 28.Kh2 c4 29.f4!と進んで白が勝ったのが、1942年のBoleslavsky - Ragozin戦です。

#### 24.Bf4 c5?

Reshevskyはcポーンを進めるためにdポーンを捨てましたが、この判断は誤りでした。24...d4 25.Bxg3 c5であれば難しい勝負です。

#### 25.Be6+! Kh8 26.Bxd5 +/-

cポーン1つであれば、白のビショップとルークで止めることができ、白が優勢になりました。「面白いことに、Smyslovが25手目までに費やした時間は6分に満たなかった。一方のReshevskyはすでに深刻なタイムトラブルに陥っていた」と、1番ボードでプレーしていたBotvinnikはコメントしています。

Smyslovを含めたソ連プレイヤーたちのオープニング研究がいに深いところまで及んでいたかを、このゲームは端的に示しているといえるでしょう。

#### 26...Rd8 27.Rad1 c4 28.Bxg3 c3 29.Be5!

キングサイドの弱点を狙いつつ、cポーンの進軍を防ぎます。こ

のように、盤の両側で戦えるのが、ビショップの強みです。

**29...b4 30.Bb3 Rd2 31.f4!**

白は32.Rxd2 Qxd2 33.Rd1を狙います。31...Rxc2?には32.Rd8#です。ツービショップとツールークという強力なピースを活かして、Smyslovはあっという間に黒キングを仕留めてしまいました。

**31...h5 32.Rb1 Rf2 33.Rfe1 Qd2 34.Rbd1 Qb2 35.Rd8+ Kh7 36.Bg8+ Kg6 37.Rd6+ Kf5 38.Be6+ Kg6 39.Bd5+ Kh7 40.Be4+ Kg8 41.Bg6 1-0**

Smyslovは続く2ゲーム目でも、得意のSlav defenseでReshevskyを下しました。ソ連といえばBotvinnik、Flohrと考えていたアメリカ側にとって、若手のSmyslovにReshevskyが完敗を喫したのは衝撃的だったでしょう。

この勝利をきっかけに、Smyslovはトッププレイヤーとしての地位を確立していきます。1946年のフローニンゲンで、Botvinnik、Euweに次ぐ3位になったことも、Smyslovがトップクラスの実力を有していることの証明となりました。

1946年に世界チャンピオンであるAlekhineが亡くなると、FIDE(国際チェス連盟)はトッププレイヤーを厳選したチャンピオンシップ・トーナメントを開催して、世界チャンピオンを決めることにしました。ソ連はこのトーナメント

に、Flohrの代わりにSmyslovを送り込みます。このトーナメントで優勝し世界チャンピオンの座を手に入れたのはBotvinnikでしたが、SmyslovはKeres、Reshevskyといった強敵を上回り、2位となりました。

もはやSmyslovの実力を疑う者はいませんでした。Smyslovの実績に足りないものは、トップトーナメントでの優勝と世界チャンピオンの称号だけでしたが、1953年の挑戦者決定トーナメントでついに1つ目の壁を打ち破ります。

**Keres, P**

**Smyslov, V**

Candidates 1953 (24)

**1.c4 Nf6 2.Nc3 e6 3.Nf3 c5 4.e3 Be7 5.b3 O-O 6.Bb2 b6 7.d4 cxd4 8.exd4 d5 9.Bd3 Nc6 10.O-O Bb7 11.Rc1**



Keres - Smyslov 11.Rc1まで

このゲーム開始時点で、SmyslovとReshevskyがトップ、3位は0.5ポイント差でKeresでした。Keresにとっては白番でトップに立つ絶好のチャンス。English Openingから自然な駒組みで進めます。

**11...Rc8 12.Re1 Nb4!? 13.Bf1 Ne4!**

ナイトを跳ねてピースの交換を迫り、プレッシャーを軽減するのは、このストラクチャーにおける黒の典型的な作戦です。

**14.a3 Nxc3 15.Rxc3 Nc6 16.Ne5 Nxe5 17.Rxe5 Bf6 18.Rh5!?**

攻撃的な棋風で知られるKeresは、キングサイドにルークを振りました。ポーンや他のピースのサポートがない攻撃が成功することは少ないですが、この場合はどうでしょうか。

**18...g6 19.Rch3!**

Keresらしい創造的な攻撃です。こういった複雑な展開では、正しい直感と深い読みの両方が必要になります。



Keres - Smyslov 19.Rch3まで

**19...dxc4!**

ルークを取った後に負けるかどうか、Smyslov自身ははっきりわかっていなかったようですが、Smyslovの直感は正しいものでした。

**18...gxh5? 19.Qxh5 Re8の**



後、Bronsteinが発見した21.a4!!が黒キングの逃走経路を断つ絶妙手。例えば21...dxc4? 22.Qxh7+ Kf8 23.Ba3+ Re7 24.Rg3+- で白勝ちです。ベストの変化は21...Qd6 22.Qh6! Bg7 23.Qxh7+ Kf8 24.Rg3 Bf6 25.c5!!で、どう応じてても白の攻めが続きます。

もちろん、ゲーム中にすべてを読み切ることは難しく、21.a4!!を発見したBronstein自身は22.c5 Qf4以下白やや良しという変化を示していたようです。22.Qh6!はチェスエンジンが発達してきた時代に発見された手でした。

いずれにせよ、黒がルークを取る手はリスクが高く、逆に本譜の19...dxc4がSmyslovらしい自然な一手でした。センターが開くことで、黒はカウンターチャンスを作れます。黒キングはf6のビショップが良い働きをしており、すぐにメイトになることはありません。

## 20.Rxh7??

大舞台ゆえのプレッシャーでしょうか。勢いよく踏み込んだのが判断ミス。白の攻めは明らかに繋がります。20.Qg4!であれば、これからの勝負でした。

## 20...c3!

これでQxd4が可能となり、黒マスのディフェンスが強化されました。

## 21.Qc1 Qxd4 22.Qh6 Rfd8

チェックメイトがなければ、センターからのカウンタープレーの方が強力です。

23.Bc1 Bg7 24.Qg5 Qf6 25.Qg4 c2! 26.Be2 Rd4 27.f4 Rd1+ 28.Bxd1 Qd4+ 0-1

プレッシャーに負けて無理攻めを続けたKeresに比べ、Smyslovの冷静な判断が光るゲームでした。

この1953年の挑戦者決定戦を制して、Smyslovは1954年に王者Botvinnikに挑戦します。このマッチはお互い譲らず7勝10ドロー7敗で引き分けとなりました。規定によりBotvinnikの防衛となりましたが、Smyslovは世界一を取れるという自信を深めたといえます。

2年後、1956年の挑戦者決定戦で優勝したSmyslovは、再びBotvinnikに挑戦します。

Botvinnik, M

Smyslov, V

World-ch 1956 (1)

1.c4 Nf6 2.Nc3 g6 3.g3 Bg7 4.Bg2 O-O 5.e4 c5 6.Nge2 Nc6 7.O-O d6 8.a3 Bd7 9.h3 Ne8 10.d3 Nc7 11.Rb1 Rb8 12.Be3



Botvinnik - Smyslov 12.Be3まで

Botvinnikが得意としたEnglish Openingに、Smyslovはキングサイド・フィアンケットで対抗します。

12...b5 13.cxb5 Nxb5 14.Nxb5 Rxb5

g7のビショップを活かすため、黒はbファイルから動きます。

## 15.d4 Qc8 16.dxc5!?

Botvinnikはdファイルを開けることを選びましたが、結果的にdのオープンファイルは白にとって得になりませんでした。先に16.a4!と、相手のアクティブなルークを攻撃しておいてから、16...Ra5 17.dxc5 dxc5 18.Nf4がまさったようです。

16...dxc5 17.Kh2 Rd8 18.Qc1 Nd4!

ここでは黒の方がピースの働きが良く、白のオープニングが成功しているとは言えません。SmyslovもBotvinnikも序盤研究の深さで知られていますが、黒番のSmyslovは長期的に自然な手を積み重ねて、序盤の問題を解消するような研究をしており、ダイレクトなアプローチを好むBotvinnikとは少しスタイルが違ったようです。

19.Nc3 Rb7 20.f4 Bc6 21.Rf2 a5?! (21...Rb3!) 22.Qf1!

BotvinnikもQc4を見せて、積極的にプレーします。ゆっくりした展開で得をするのは、bファイルとdファイルをコントロールしている黒なので、白はなんとか主導権を握るために動きます。

22...Nb5 23.e5 Nxc3 24.bxc3  
Bxg2 25.Rxg2 Rxb1 26.Qxb1  
Qc6 27.Rd2?



Botvinnik - Smyslov 27.Rd2まで

時間切迫から、Botvinnikの方に  
ポジショナルなミスが出ます。

ビショップが残るエンドゲーム  
では、ポーンの色が重要。互いに  
黒マスビショップをもつこの局面  
では、27.c4!が絶対の一手でした。  
このあと白はc5のポーンをターゲ  
ットにしながらプレーすることが  
できます。

27...Rxd2+ 28.Bxd2 c4!

黒に手番が渡れば、逆にこの手  
が強力です。c3のポーンを弱点と  
して固定され、白は受け身でプレ  
ーすることを余儀なくされてしま  
いました。

このアドバンテージを勝ちに結  
びつけるテクニックこそ、まさに  
Smyslovの真骨頂。ぜひ盤に並べ  
て味わってほしいと思います。

29.Be3

29.Qb8+ Bf8 30.f5!? gxf5はh6をc6  
のクイーンがカバーしており、黒  
に大きな問題はありません。それ

でも白はこのようにどこかでカウ  
ンターを作るべきだったでしょ  
う。

29...f6!?

相手のポーンを崩しながら、ビシ  
ョップの活用を図る典型的な一手  
です。29...h5! 30.Qb8+ Kh7!も有力  
でした。

30.Bd4 Kf7 31.Qd1?!

エンドゲームではアクティブにプ  
レーすることが重要です。一度受  
け身になってしまうと、相手に楽  
をさせてしまいます。



Botvinnik - Smyslov 31.Qd1まで

31...a4!

またしても弱点を固定する、教科  
書のような1手です! 黒マスである  
a3とc3に弱点を抱えた白は、身動  
きが取れなくなってしまうです。

32.Qe2 Qd5 33.Kg1 Bf8!

Smyslovはあせらず局面を改善し  
ていきます。華麗な技をかけるよ  
りも、真綿で首を締めて相手に転  
んでもらうのが、この局面では一  
番安全な勝ち方です。

34.f5?

プレッシャーに耐えかねた  
Botvinnikは、なんとか逃れようと  
しますが、これは負けを早めてし  
まいました。34.Qb2!のように、形  
を崩さず辛抱する手が必要でし  
た。

34...fxe5 35.fxg6+ hxg6 36.Bxe5  
e6 +/-

駒割は互角で、まだまだ長い勝負  
のように思えますが、すでに決定  
的とも言える差がついています。  
黒のポーンはすべて白マスに乗っ  
ており、白はこれらをビショップ  
で攻めることができません。一方  
の黒には相手のポーンを取ってパ  
スポーンを作る、わかりやすいプ  
ランがあります。

37.Qf2+ Ke8 38.Qf6 Bxa3  
39.Qxg6+ Kd7

a3とg6と弱点同士を交換しまし  
たが、aファイルに残ったパスポ  
ーンが決定打になります。

40.Qh7+ Be7

ゲームはここで封じ手を迎  
え、Botvinnikは次の一手を封じま  
したが…。

41.Bf6

0-1

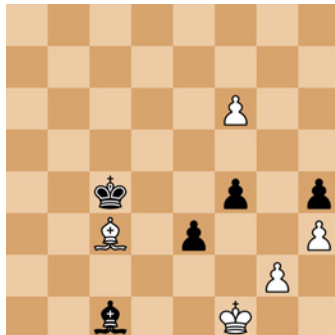
次の日、Botvinnikはゲームを再  
開することなくリザインしてしま  
いました。当時、封じ手の局面は  
両陣営によって研究されることが  
当たり前でしたから、夜のうちに  
41.Bf6 Qc5+ 42.Kg2 a3 43.Bxe7  
Qxe7 44.Qc2 Qc5 45.g4 Qa5+ のよ

うな進行で見込みがないと判断したのででしょう。

この1957年のマッチでSmyslovはBotvinnikを6勝3敗13ドローで下し、7人目の世界チャンピオンとなります。翌年、リターンマッチでBotvinnikに負けたため、世界チャンピオンであった期間はわずか1年でしたが、オープニングを徹底的に研究し、ポジションを深く理解して正確に指すSmyslovは、ソ連時代を象徴するチャンピオンであることは間違いないでしょう。

ポジショナルチェスを主体としたスタイルは年齢を重ねても衰えることはなく、Smyslovは長い期間にわたりトップクラスの成績を残しました。50代、60代になっても大きな大会で上位をキープし、62歳のときには挑戦者決定戦の決勝戦まで進出することもありました。1991年に創設されたシニア選手権でも優勝し、70歳で初代のシニアチャンピオンとなっています。

また、Smyslovはプロブレムやスタディと呼ばれる問題の作成にも積極的に取り組んでいました。解くのはもちろん、鑑賞するだけでも楽しい分野です。比較の実戦のエンドゲームに近い問題を紹介しますので、腕に覚えのある方はぜひ、解答を隠してチャレンジしてみてください。



Smyslov作 1976年

こそ、チェスの最もロマンチックな部分であり、多くの人にとって真似したい部分でしょう。次回は、チェスの科学が発達してきたこの時代に、古き良き芸術的なチェスを復活させた天才プレイヤーを紹介します。

### 1.f7!

(1.Bb4? f3! 2.gxf3 e2+! 3.Kxe2 Kxb4=)

### 1...Ba3

(1...e2+? 2.Kxe2 f3+ 3.Kxf3 Bh6 4.Bd2! Bf8 5.Kg4+-)

### 2.Bg7 f3! 3.gxf3 Kd3! 4.f8B!!

(4.f8Q? e2+ 5.Kf2 Bc5+!! 6.Qxc5 e1Q+ 7.Kxe1=)

### 4...e2+ 5.Kf2! e1Q+ 6.Kxe1 Ke3

### 7.f4!!

(7.Bxa3? Kxf3=)

### 7...Kxf4 8.Kf2 +-

こうして、第2次世界大戦後のチェス界では、BotvinnikやSmyslovの活躍により、「科学的な」あるいは「学問的な」ソ連スタイルのチェスが主流になっていきます。現代のCapablancaとも言うべきSmyslovのスタイルは、初中級者が勉強するにはとても良い教材です。

しかし、MorphyやAlekhineが得意とした華麗なコンビネーション



# チェス大会 【文】上杉賀子 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子（上杉 晋作・2007 年高校 1 年生で全日本史上最年少チャンピオン）が 2009 年チェス国籍日本の最年少 FIDE マスターとなり 2010 年全米高校選手権で優勝するまで（さらにアメリカの Senior Master の資格となる USCF レート 2400 の壁を超えるまで）参戦した、アメリカの全ての公式戦、約 180 大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から 1 年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレイヤーとして出陣です。

## NO.74 第 6 回アーリントン・オープン

2006 年 10 月 14 日～15 日  
晋作 (15 歳) の結果: 3.5P/5Game  
レーティング 2173 → 2176  
大会詳細: [USCF サイトより](#)

IM 1 人、FM 3 人、FIDE レート保持者たぶん 13 人くらい、総勢 74 人というローカルの大会です。これくらいの大会だとしても上位登録となり（今回は 6 番登録）殆どは下の人とあたることになってしまいます。5 試合のうち FIDE 対戦は 2 試合、一勝一敗でした。過去 2 度対戦し白で引分けていた FM に今回は黒で負けてしまいました。このメンバーならグランプリポイントもねらえたのに残念でした。彼以外は必ず勝つような相手ですがそれでも「必ず」というのは大変です。レート以上の強敵もいました。最終戦もサドンデスにはいり、やっと勝ちました。晋作は相手が弱くても（でもレート以上の実力の方たちでした）いつも全力投球なので見ているほうも疲れます。レートは 3 あがって 2176 です（さすがナショナル TD のマイクさん、試合終了直後の夜中にレートの更新はアップされています）。亀のような歩みですが友達にはこの半年以上ずっと下がっていないというのはすごいと



地元でお馴染みの FM と対戦する晋作

いわれているそうです。見てみると昨年の 12 月以来ずっと上がりつづけています。一時期チェスから離れた 2 年下の子が復活したのだそうで、それまではコーチがいましたが今はコーチがいなくて晋作のコーチのことを聞いてきました。主人も久しぶりの観戦で知り合いたちと親も子も楽しく過ごした週末でした。

10/7 は TD（トーナメントディレクター）の仕事。8 時半到着後、早速州内の強豪仲間たちとバグハウスをしていると黒山の人だかり。大会では小学生セクションの TD をまかされましたが中学生セクション担当のベテラン TD さ

んが助けてくれました。小学生セクションが早く終了したので、高校生セクションの最終戦を中に入れて見ることができました。

10/8 は晋作が通う高校主催の難病患者へのドネーションが目的の地域マラソンに参加。

10/19 夜はハイスクールはじまって初の校内コンサート出演、10/20 夜は寒い中、Pepband としてアメフト応援に行きました。

21 日、22 日と近くの FIDE 大会に参加するつもりでしたが、首都圏のハイスクールチェスリーグのキックオフ大会に高校チームが参加することになり、午前中クロスカントリー大会のあと、汗ビッ

# チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

ショリのまま終了後すぐに車をとばしました。着替えは車の中です。

このリーグ戦はまず、北部地区、南部地区にわかれてキックオフ大会がおこなわれ、毎年秋から冬にかけて、放課後、home/away で、首都圏の高校チームがそれぞれの高校にでかけて5対5のマッチ戦を行います。勝ち点をきそって、上位チームがプレーオフをして優勝チームを決めるというものです。USCF レートに関係ないので各高校のチェスクラブでチェスを楽しんでいる高校生が集います。うちの高校にはコーチもいないので、しかたなく私がこのリーグ戦のコーチ's Meeting にもでて、いろいろ連絡事項をまとめた学校との調整（相手側の高校を迎えるときにどの教室を使わせてもらえるかなど）もしています。2、3校には全米大会にも行く選手がいますが、ほかは部活で楽しくやっているというレベルで、北部地区キックオフ大会では晋作がたった19秒や48秒しか使わず勝った試合もあります。チームは晋作ともうひとり全米ランキング入り、そして公式戦経験者3人をそろえるうちの高校が優勝しました。個人の戦績としては11チームから52人が参加し、4戦全勝は4人、レートがないのでペアリングもランダムなのでタイブレークも余り意味がなく、全勝4人でブリッツをやって晋作が優勝しました。小さいトロフィーですが久しぶりのトロフィーと

タイトルで晋作も喜んでおりました。なによりチームで戦うことが好きなので楽しんでできました。リーグ戦が始まるとハイスクール生はいろんな活動（他の文系クラブ、スポーツ部、音楽活動、ボランティアなどなど）をかけもちしているのが普通なので、毎回放課後の対戦メンバーを揃えるのが難しく、ベストメンバーがそろうとは限らないので、時々番狂わせが起こります。一番の強敵は南部地区の学業で全米ナンバーワン、チェスでも全米レベルのチームです。

この頃、World Juniors&girls で1位タイとなったモンゴルの女性 GM Munguntuulさんからメールがきました。アルメニアで行われた世界ジュニア大会は日本ジュニアチャンピオンが辞退されて、お話がまわってきたのですがハ

イスクールはじまって1ヶ月で2週間以上休むというのは無理なので残念ながら今回は辞退させていただきました。Munguntuulさん（現モンゴル IM/WGM）のメールには2008年にドイツ（のチェスオリンピック）で会いましょうと書かれていました。いつかオリンピック出場という夢が実現できるよう力をつけていって欲しいと願っています。

10/28はまたTDの仕事。今回は高校生セクションのTDをまかされました。Sweet16のQualifierトーナメントなので、友達ばかりで楽しかったようです。

今月はいつから毎週末補習校はパス。宿題もたまる一方です。



久しぶりのトロフィー獲得





## 海外大会参戦レポート 33rd annual North American Open

中川 晟志

中川です。中野チェスクラブの代表として認知されている方もいらっしゃるかと存じます。しかし、今回はクラブの宣伝ではなく、直近の海外遠征の話をしてします。

33rd annual North American Open は 2023 年 12 月 26 日～30 日に Horseshoe Las Vegas で開催されました。私は時差ボケ（日本から北米に行く場合、朝は早く起き夜も早く眠くなります）と、いろいろなタイムコントロールを体験してみたいことを理由に 3 日コースを選びました。十年ほど前にこの大会の話を聞き自分もいつかこの大会に出たいと思ってましたが、日本からは他に奥野凜音君と松永冬馬君が参加しています。二人とも将来 FIDE2000 超えそうな有望なジュニアです。

### 持ち時間

試合は Open Section 以外は 12/26 からの 4 日コース、または 12/27 からの 3 日コースを選べます。

Open Section は 12/26 からの 5 日間で持ち時間 40 手 90 分 +30 分 +30 秒 Delay/ 手、スイス 9R です。4 日コースは 12/26 の夜から 12/29 まで持ち時間 40 手 90 分 +30 分 +30 秒 Delay/ 手、スイス 7R、そして 3 日コースは 12/27 から最初の 2 試合の持ち時間が 60 分 10 秒 Delay/ 手で 3 ラウンドから 4 日コースと合流します。



奥野凜音君（右、USCF 1966/FIDE 1921）は Open Section

### セクション

Open Section、U2300 と U2100 は FIDE 戦です。それ以外のセクションは U1900、U1700、U1500、U1300、U1000 でした。私はアメリカのレーティングが 1920 だった為、U2100 に参加することになりました。海外からのプレイヤーは追加料金を支払わずに Open Section に参加するのが可能ですが、自分はグランドマスターたちと試合をする心の準備が出来ておらずレーティング範囲内のセクションにしました。



松永冬馬君 (USCF 1879/FIDE 1675) は U2300 に挑戦しました。







## 会場



今大会は Open Section に 125 名、U2300 に 161 名、U2100 に 157 名、U1900 に 179 名、U1700 に 150 名、U1500 に 121 名、U1300 に 104 名、U1000 に 126 名の合計 1123 人のチェスプレイヤーがこの大ホールで試合をしました。ボード番号だと 600 まで用意されてます。

チェスセットは用意されておらず、持参の物を使います。自分は中野チェスクラブでも愛用している ChessJapan(チェスジャパン)のセットと Delay 対応可能なチェスクロックを持っていきましたが、一度も試合では使わなかったです。(ホテルの部屋で振り返りした時に使いました)。



ボード 1-10 はオーガナイザーが用意した DGT ボードを使い、隔離されたスペースで試合ができますがボード 11 以降になると大広間で試合することになります。

印象的だったのは Open Section で国内レーティング 2600 超えのグランドマスターが DGT ボードから外れて「その他大勢」の席で試合していたところでした。まさにアメリカは実力主義の国ですね。

## 結果

まず自分が、ちょうどリストの半分以下でした (1R はリストトップの 2098 と当たりました)。最終的に 3.0/7 で負け越し、初戦から 3 連敗することは予想してませんでした。自分が体調不良や寝不足ではなく相手が強かったからです。セクションを細かく分けることにより、実力が近い相手との試合が期待できるので黒星が多くても楽しめました。持ち時間も 40 手 90 分 +30 分と長めでしたので実力を出し切ることができました。

「楽しかった負け試合」の 1 つを紹介いたします。

**Seiji Nakagawa**  
**Aishwarya Lakshmi Ganapathy**  
North American Open 2023  
U2100

1. e4 e5 2. Bc4 Nf6 3. d3 Bc5 4. Nc3 h6 5. f4 d6 6. Nf3 Nc6 7. f5 Ng4 8. Qe2 Bf2+ 9. Kd1 Bb6 10. Rf1 Nf6 11. a3 Nd4 12. Nxd4 Bxd4 13. g4 c6 14. h4 d5 15. exd5 cxd5 16. Bb3 Bxc3 17. bxc3 Qd6 18. a4 e4 19. Bf4 Qc6 20. g5 Qxc3 21. Rb1 Nd7 22. Bd6 Qc6 23. Bb4 Nc5 24. dxe4 Nxe4 25. Rf3 hxg5 26. Rd3 Be6 27. fxe6 fxe6 28. hxg5 Rh1+ 29. Be1 O-O-O  
まで進んだ局面です。



白は駒得してますがキングが不安定です。黒から 30 ... Nc3+ を狙われているので対応しないといけないのですが難しいところです。持ち時間はほぼ使い切り、残り 2 分でしたが (30 分を追加される) 40 手まであと 10 手かかります。

本譜では e1- ビショップを守りつつ、a7 を狙うために

### 30.Qe3

と指しましたが、これが致命的なブランダーでした。以下、

**30... d4 31. Bxe6+ Qxe6 32. Rxd4 Qg4+ 33. Kc1 Rxd4 0-1**

と逆転されました。悔しいかと言われるれば悔しいですが、試合中はアドバンテージを維持できる 30.Qf3(e1 の守りが薄くなる手) や 30.Kc1(キングをわざわざピンされる位置に移動する手) は見えてませんでした。

今大会はこのような難しい選択をしないといけない試合が多く、とてもハードでした。

凜音君と冬馬君は Open Section や U2300 の強敵相手にいい試合をしていました。





## 空港

自分は 23 日に LA へ飛び、クリスマスイブは LA 在住の友人と過ごし、25 日にラスベガスへ移動しました。LAX( 空港 ) に到着したときの入国手続きで大会の参加者リストに自分の名前が載っているか確認された時は驚きましたが、問題なく入国出来ました。

## 食事

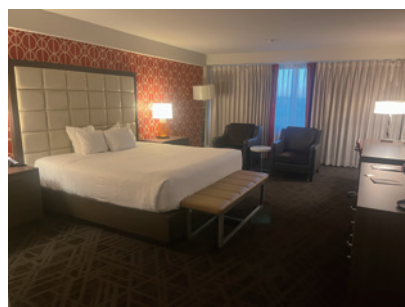
試合開始時間が 11 時と 6 時だったので試合直前に食事を取ってました(何でもアメリカンサイズだったので日本人の胃袋には多すぎました)。

朝食(ほぼランチ)は一人で、夕食は大会と一緒に参加しているアメリカ人の友人たちと取りました。



朝食の一例。アメリカの Denny's です。量もすごいです。がチップ含め \$20(= 約 3000 円) 以上しました。

## \*ホテル



左から Sam Lee (unrated、U1900) と Alex Kaelin(USCF 1885、U2100) はワシントン州から参加していました。



ホテルは試合会場の Horseshoe にしました。一昨年末まで Bally's という名称でした。2 か月前から予約を入れたのでリーズナブルな価格で泊まりました。ラスベガスのホテルは Casino で儲けているので宿泊は比較的安めです。

\*終わりに・・・

負けた試合からもチェスの楽しさを改めて感じる事ができた大会でした。カナダ生活が長かった私にとって久々の海外での大きな大会は新鮮で刺激的でした。私の中野チェスクラブでもこの経験を活かして皆さんが楽しめるような大会運営を目指したいと思います。皆さま宜しくお願いします。中野でお待ちしております。

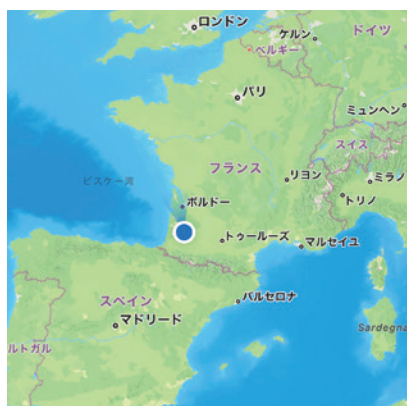






## 20th Mont de Marsan クリスマス国際オープン

阿部裕太



大会会場となった街 Mont de Marsan の位置情報。ボルドー (Bordeaux) から南下して、もう少し進めばスペイン国境という位置です。

### はじめに

マガジンではお初にお目にかかります。阿部裕太と申します。時々連盟の大会でアービターをしていることがあるので見たことがある人はいるのではないのでしょうか。今回はアービターとしてではなく、いち選手として年末休みに出場した大会についてレポートしていきたいと思います。

今回参戦した大会はフランス南西部 Bordeaux からさらに 130km ほど南下した Mont de Marsan という街で開催されたものです。大会日程は 12/26 ~



大会会場になった街、Mont de Marsan。写真は街の中心地にあるモニュメント (?)、結構な名所らしいです

12/30 の 5 日間、90min+30sec のクラシカル 9 ラウンドの大会です。私は 12/28 からが年末休みだったので 25 日 (月) から有給を取得し、24,25 日で開催地まで移動して大会後年明けに帰ってくるという日程で参戦してきました。

### 大会参加の動機

学生のころから何度か海外の大会に挑戦しており、そのたびに現地のプレーヤーと交流を経て次なる大会へ...といった活動をしておりましたが、今では企業に就職して、そう何度も海外に行くこともできなくなっていました。加えてコロナ禍になり海外に行く機会がさらに遠のいたところでし

た。私の勤め先はこのあたりの制限が厳しかったこともあり、つい最近ようやく海外渡航にも寛容になってきたところだったので、お盆か年末休みを使ってどこかの大会に出たいと思った次第です。それでお盆休みはどこへ行くにも渡航費がすさまじく高かったので年末休みと有給を使って出られそうな大会を絞り込んで今回の大会にたどり着きました。

### 大会のエントリーまで

ここでは、そもそも海外の大会ってどうやって探しているの? というお話から実際にエントリーするまでの話をしていきたいと思います。連盟の Web サイトにも海外の大会の紹介はありますが、







大会会場の様子 (朝)

椅子に掛かっているのは大会参加記念Tシャツです。(なぜか2着もらった)

当然ながらそこで紹介されている大会がすべてではありませんし、自分が参加するのに都合のいい大会をピンポイントで見つけてくるのは簡単なことではありません。というか、他のよく遠征されている方はどこから大会見つけてきているのか、私も知りたいくらいです。

さて私の場合ですが、Modern-chess.com という Web サイトから探してきております。こちらサイトのメインメニューから Products>Chess Tournament とたどっていくと、FIDE トーナメントの検索機能にたどり着きます。ここで任意の条件 (開催時期 / 地域など) を入力して検索にかけて、気になった大会の詳細ペー

ジを開いて、そこにある手続きに従ってエントリーに進みます。

大会によっては Web ページ上のエントリーフォームに入力するだけだったり、大会ページからドキュメントをダウンロードして必要事項を入力してメール送信だったり様々なケースがありますが、今回私が参加した大会はオーガナイザーへの参加費の振り込み確認をもってエントリー完了といったものでした。(というか Web ページの参加申込欄にオーガナイザーの連絡先が書いてあるだけだったので、メールを送って手続きはどうしたらよいか聞いてみたところ、「参加費を振り込んでください」と銀行口座の情報をいただいたという流れでした)

さて困った。どうやってフランスの銀行口座に振り込めばよいのだと。

やり方は大きく 2 通りあります。銀行の窓口で直接海外送金依頼をかける。もう一つは海外送金サービス (Western Union, Wise など) を利用する方法です。私は後者の方法で振り込みました。今回私は Wise の送金サービスを利用しましたが、具体的なやり方は調べると出てきますのでここでは割愛します。

Wise から送金完了の連絡を受けて、オーガナイザーに入金完了した旨と氏名・FIDE ID を連絡して数日、エントリー完了したとの返信をいただいて、エントリー周りの手続きは完了です。

### 現地までの移動について

フランスまでは、東京 - パリまで北京経由の便で行きました。

Charles-de-Gaulle 空港 (パリ) 到着が夜だったので空港そばのホテルで 1 泊、翌朝大会会場のある街 Mont de Marsan へ半日かけて移動しました。

まず空港そばのホテルから空港の駅に移動して TVG (日本で言う新幹線みたいなやつ) に乗り Bordeaux まで 4 時間弱、新幹線で東京から広島まで行くくらいの感覚でしょうか。Bordeaux からローカルの鉄道に乗り換えてさらに 1.5 時間、駅に着いたらホテルまではオーガナイザーに車で送っ





てもらいました。

エントリーの際のオーガナイザーとの連絡で、到着したら駅からホテル、さらには大会期間中のホテル会場間は車を出してくれると申し出ていただいたので、それに甘えさせていただきました。送迎の都合もあってフランスについてからはオーガナイザーと連絡を取り合っていました。

### いざ大会へ

大会会場は大きな自然公園に併設された講演などで使う小ホールみたいなところでした。会場回りはあまりお店などなかったので、朝ホテル付近のスーパーで飲み物とお昼用のサンドウィッチを買ってから会場へ向かいます。今大会はフランス南西部、大都市圏からは離れた地域での大会だったので、参加者の大多数はフランスとスペインからでした。

スターティングリストは 46 位 /125 人で最終結果は 4.5pts/9 の 66 位で終了、リスト的にもう少し頑張りたいところでしたが及びませんでした。もっと精進します。

チェスマガジンの記事でチェスの話が一つもないのはさみしいので本大会の私のゲームから局面をひとつご紹介しましょう。



**20e Open International de Noël de Mont de Marsan, Ronde 6, John Gabaix (FRA)– Yuta Abe (JPN), Position after 47.Qe1.**

大会 6 ラウンド目の終盤、黒 (私) はすでに 1 ポーン得をしており、ピース交換してエンドゲームに突入できれば確実に勝てるような局面です。ここでの私の考えでは先述の通りピース交換を是とするので 47...Qe2 としました。そのまま白から取ってくればよし、Q が逃げる場合でも 48.Qa1 Nd3 49.Bd4 Ke6 50.Qb1 Qe1+ の手順で強制交換できます。しかしよくよく振り返ってみると、より強力な手 47...Ne2! があったのです。(48.Kh1 f4 からの ...Qh7+ が強烈) ピース交換を進めれば勝てる局面ということで実際に私が指した ...Qe2 でも十分勝てる手ではありますが、より強力な手を常に探す意識が欠けていたなと思われました。このゲームではすでに優勢だったから結果に影響しなかったものの、これが互角の盤面だったらそこから局面を悪くして

しまいかねない甘いプレーだったなと反省する次第です。

あと、大会本編とは別に Blitz 大会 (Blitz の FIDE 公式戦です!) も開催されました。こちらは現地に着いてから別途案内があり、3€の参加費で参加できました。日本では開催されることはありませんが、クラシカルの大きなトーナメントでは Blitz 大会がおまけで開催されることがあります。だいたい大会中盤くらいの日、午後の試合が終わってから夜間に開催といったケースが多く、クラシカルのとーナメントとは違った楽しさがあるので私は毎度参加しております。Blitz 大会の方は 5pts/9 となんとか勝ち越して終えることができました。

また、私が海外遠征だからこそと感じている点ですが、海外の大会では日本よりもタイトル持ちのプレーヤーが多く参戦してきます。日本だとトップボードまで上がってこないとまず当たらないので、私のような上位層ではないプレーヤーとしてはマスターに挑むチャンスが比較的多いのも海外遠征の魅力かなと思います。今回だと Blitz・クラシカル併せて IM, WFM, FM の方と当たりました。(今回は当たりませんでした。が、過去に参加した Blitz 大会でなら GM と何度か当たったことがあります。)





Ronde 6 の対局相手、John Gabaix さんと一枚 @ 検討室

家族旅行ついでにお子さんの大会参加に付き添って参加していたとのことでした。

## 大会後は観光

大会は満足できる結果ではありませんでしたが、せっかく海外にまで足を運んでいるのですから現地をエンジョイしてこそです。大会終了後 Bordeaux に移動して、翌日、丸1日かけて観光しました。Bordeaux といえば世界でも有数のワインの産地、現地のワインを楽しまない手はありません。私が訪れたのは中心街からやや北上したところにあるワイン博物館 Cité du Vin です。こちらでワインの歴史・ワインができるまでなどワインにまつわる様々な展示とテイasting (！！) を楽しんでから、行きと逆順の経路で日本に帰りました。

## 遠征費用

正直な話、海外遠征で一番気がかりなのは予算だと思います。長期休みを確保できたとして、やはり海外渡航+1週間超の滞在、ある程度まとまったお金が必要なのは事実です。ご参考までに今回の私のおおよその遠征費用を公開します。

渡航費 (往復): 13 万円  
交通費 (パリ→滞在先往復): 3 万円  
滞在費 (8泊): 8 万円  
食費: 2~3 万円  
大会後の観光 (1日)+お土産: 3 万円

合計でおおよそだいたい 30 万円くらいでしょうか。ヨーロッパはどうしても物価や渡航費 (あと

直近の情勢では円安も影響します) で高くなってしまいますね。

東南アジアなど比較的近い国々の遠征であれば渡航費・滞在費はこれよりずっと安くできると思うので、予算を抑えて海外遠征を計画するなら東南アジア諸国で検討するのがおすすめかもしれません。

もちろん観光をメインに考えて、行きたい国・地域でトーナメントを探して旅行ついでに参戦、というもありだと思います。実際、私がこれまで遠征で出会ってきたプレーヤーでもバカンスついでにトーナメントに参加したという人はけっこういました。

## 最後に

ここまで読んでいただき、海外遠征に興味を持っていただけたでしょうか。ともかく私からのメッセージとしては、気軽に大会に挑戦してみよう！というものです。

チェストーナメントは星の数ほど、と言うと大袈裟ではありますが、調べてみるとほんとうにたくさんのトーナメントがあります。チェスの腕試しはもちろんですが、そうでなくても旅行のついでだったり、国際的な交友を広げる足掛かりであったりと、ぜひとも海外のチェストーナメントに挑戦していただきたいと思います。

以上、日本から海外のチェストーナメントに挑戦する人が増えることを願ひまして、本記事の結びとさせていただきます。最後までお付き合いいただきありがとうございました。





# 初心者向け メイト・ジム

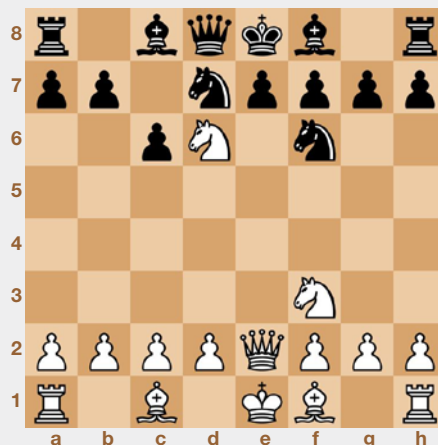
## 05 ナイトのメイト

【文】山田明弘



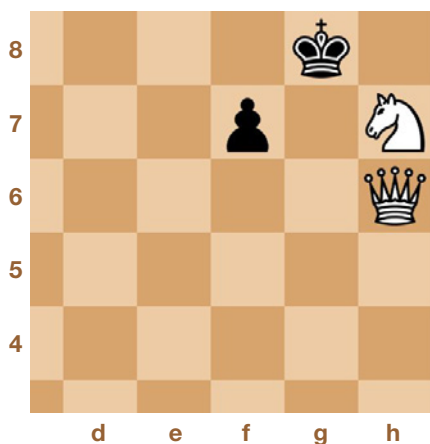
### 例題

右の図は実際に6手で終わったゲームです。自駒に囲まれたキングをナイトでチェックメイトすることをスマザード・メイトといいます。それができるのもナイトの面白さです。

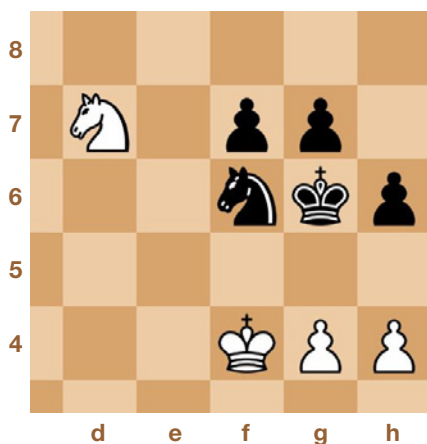


### 問題 すべて白番

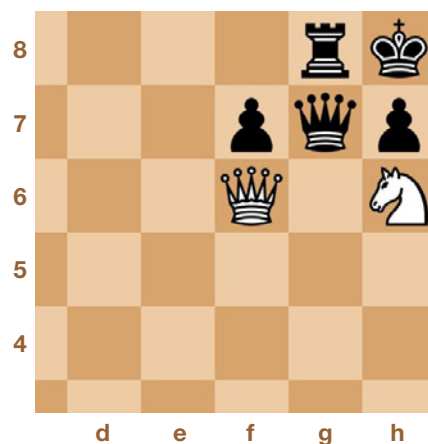
#### 01 1手メイト



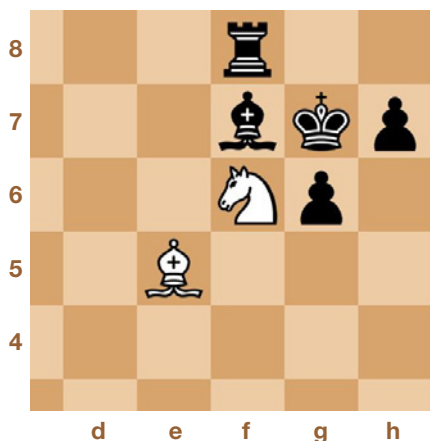
#### 02 1手メイト



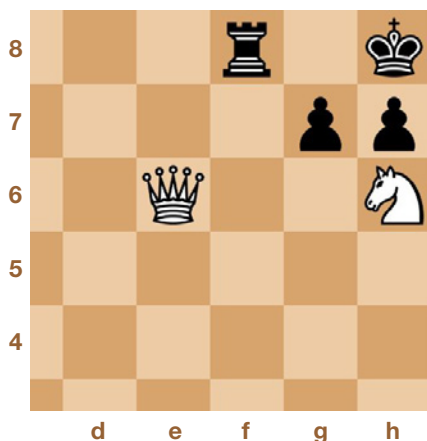
#### 03 1手メイト



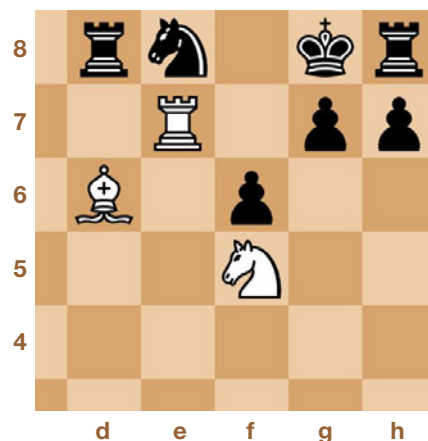
#### 04 2手メイト



#### 05 2手メイト



#### 06 2手メイト



### メイト・ジム 解答

01 1.Nf6#

02 1.Nf8#

03 1.Nxf7#

04 1.Ng4+ Kg8 2.Nh6#

05 1.Qg8+ Rxc8 2.Nf7#

06 1.Rxc7+ Nxc7 2.Nh6#

参考までに例題のゲームの棋譜は次の通りです。

1. e4 c6 2. Nc3 d5 3. Nf3 dxe4 4. Nxe4 Nf6  
5. Qe2 Nbd7 6. Nd6# 1-0

出題は **47** ページ

### 編集部

木下奏子 神田大吾

山内美加 真鍋浩

菊池祐樹 鈴木秀聡 (順不同)

### 発行

一般社団法人 日本チェス連盟

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。

ご意見・ご感想などは[japanchess.editor@gmail.com](mailto:japanchess.editor@gmail.com) までお寄せください。